平成２６年度

大学院生による授業評価結果報告書
（後期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
6	教職共通科目	30040000	数学と芸術、そして科学間の接点を探る	佐伯　昭彦,胸組　虎胤,金児　正史,齋藤　大輔
7	教職共通科目	30041100	伝統文化（音楽・美術）における表現の思想	栗原　慶,遠藤　綾子
8	教職共通科目	30043100	コミュニケーションと言語･教育	原　卓志,伊東　治己,畑江　美佳
9	教職共通科目	30046000	教師のための声とからだとことば	頃安　利秀,余郷　裕次,綿引　勝美
10	教職共通科目	30047000	学校危機管理研究	大西　宏,阪根　健二
11	教職共通科目	30049000	予防教育科学	内田　香奈子,安藤　有美
12	人間形成	30115000	教育認知心理学演習	皆川　直凡
13	人間形成	30117000	発達健康心理学演習	山崎　勝之
14	臨床心理士養成	30427000	臨床心理学演習	今田　雄三,葛西　真記子,吉井　健治,中津　郁子,小倉　正義,久米　禎子,新見　昌子,粟飯原　良造
15	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西　真記子,今田　雄三
16	臨床心理士養成	30443000	心理療法研究	古川　洋和
17	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津　郁子,久米　禎子
18	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田　雄三
19	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	古川　洋和
20	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	木村　直子
21	幼年発達支援	30519000	幼年発達心理演習	田村　隆宏
22	幼年発達支援	30523000	幼年期教育学演習	湯地　宏樹
23	幼年発達支援	30525000	幼年発達と幼児教育内容論演習	塩路　晶子
24	現代教育課題総合	30631200	現代総合学習論	小西　正雄,谷村　千絵
25	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	谷村　千絵,近森　憲助,太田　直也,田村　和之
26	現代教育課題総合	30635000	総合学習カリキュラム開発特論	村川　雅弘
27	現代教育課題総合	30644200	人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）	谷村　千絵,金野　誠志
28	現代教育課題総合	30645200	人間とコミュニケーションⅡ（実践研究Ａ）	金野　誠志,小西　正雄
29	現代教育課題総合	30648200	人間と環境Ⅰ（基礎研究）	田村　和之
30	現代教育課題総合	30650200	人間と環境Ⅲ（実践研究Ｂ）	田村　和之,近森　憲助

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
31	現代教育課題総合	30663000	現代の諸課題と学校教育Ⅱ	小西　正雄
32	特別支援教育	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上　とも子
33	特別支援教育	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上　とも子
34	特別支援教育	31162000	特別支援教育課程特論演習	高橋　眞琴
35	特別支援教育	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷　博俊
36	特別支援教育	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原　光恵
37	特別支援教育	31167000	特別支援教育学習支援演習	島田　恭仁
38	特別支援教育	31169000	発達障害児支援医学演習	津田　芳見
39	特別支援教育	31170000	発達障害児神経学演習	田中　淳一
40	言語系	32139000	日本事情・日本文化	小野　由美子
41	言語系	32142000	日本語Ⅲ	田中　大輝
42	言語系	32145000	日本古典語演習	原　卓志
43	言語系	32147000	現代日本語演習	茂木　俊伸
44	言語系	32149000	日本文学演習Ⅰ	黒田　俊太郎
45	言語系	32151000	日本文学演習Ⅱ	小島　明子
46	言語系	32157000	日本語教育学演習	小野　由美子
47	言語系	32160000	日本語文法演習	田中　大輝
48	言語系	32162000	日本語語彙論	田中　大輝
49	言語系	32174000	国語科教育学演習	村井　万里子
50	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田　伸司
51	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷　裕次
52	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）	杉浦　裕子
53	言語系	32221000	学習英文法演習Ⅰ	眞野　美穂
54	言語系	32229000	アカデミック・ライティングⅠ	吉川　エリザベス
55	言語系	32279000	英語科教育演習Ⅰ	伊東　治己

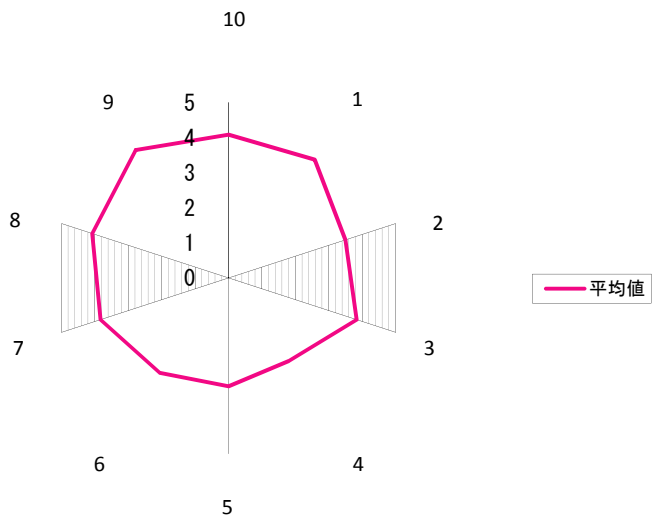
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
56	言語系	32280000	英語科教育演習Ⅱ	山森　直人
57	言語系	32281000	英語科教育演習Ⅲ	畑江　美佳
58	社会系	33158200	歴史学演習Ⅰ	大石　雅章
59	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田　哲
60	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生　多聞
61	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津　正美
62	自然系	34127000	幾何学研究	松岡　隆
63	自然系	34128000	幾何学演習	松岡　隆
64	自然系	34129000	解析学研究	成川　公昭
65	自然系	34130000	解析学演習	成川　公昭
66	自然系	34173000	数学科教育学演習	秋田　美代
67	自然系	34174000	数学科授業研究	坂井　武司
68	自然系	34214100	物理学特論Ⅲ	粟田　高明
69	自然系	34218000	物理化学特論	武田　清
70	自然系	34224100	生物科学特論Ⅰ	米澤　義彦
71	自然系	34232000	地学実験法特論	小澤　大成,村田　守,香西　武,足立奈津子
72	自然系	34273000	理科教材開発研究Ⅰ（物質とエネルギー）	寺島　幸生
73	芸術系	35112000	音楽劇総合演習	真鍋　美恵
74	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安　利秀
75	芸術系	35122000	ソルフェージュ研究	山田　啓明
76	芸術系	35127000	室内楽（器楽）	森　正,山根　秀憲
77	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡　貴史
78	芸術系	35173000	音楽科授業研究	小山　英恵
79	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木　久人
80	芸術系	35214000	版画制作演習	平木　美鶴,武市　勝

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
81	芸術系	35215000	彫刻制作研究	野崎　窮
82	芸術系	35218000	デザイン制作研究	内藤　隆
83	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤　隆
84	芸術系	35221000	工芸制作研究	栗原　慶
85	芸術系	35224000	総合造形研究	池垣　禎彦
86	芸術系	35272000	美術科教育学研究	山田　芳明
87	生活・健康系	36118000	学校体育経営演習	藤田　雅文
88	生活・健康系	36132000	健康科学演習	廣瀬　政雄
89	生活・健康系	36212100	情報技術演習	菊地　章
90	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	林　秀彦
91	生活・健康系	36229000	情報応用演習	曽根　直人
92	生活・健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本　賢治
93	生活・健康系	36312000	家族・ジェンダー論演習	黒川　衣代
94	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井　典代
95	生活・健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水　多佳子
96	国際教育	37131000	国際教育演習Ⅰ	近森　憲助,石村　雅雄,小澤　大成,石坂　広樹
97	国際教育	37132000	国際教育演習Ⅱ	近森　憲助,石村　雅雄,小澤　大成,石坂　広樹
98	国際教育	37135000	国際教育協力特論Ⅱ	小澤　大成,近森　憲助
99	国際教育	37136000	国際教育協力研究	石坂　広樹,近森　憲助
100	国際教育	37139000	外国語運用能力強化演習Ⅱ	石村　雅雄,石坂　広樹
101	国際教育	37180000	国際教育協力演習	石坂　広樹,近森　憲助
102	国際教育	37182000	国際理解教育特論Ⅱ	近森　憲助,小澤　大成
103	国際教育	37183000	国際理解教育演習	近森　憲助,小澤　大成
104	国際教育	37185000	国際教育総合セミナーⅡ	石村　雅雄,近森　憲助,小澤　大成,石坂　広樹

結果報告書

授業科目名　数学と芸術，そして科学間の接点を探る
評価実施日　平成27年1月20日
担当教員名　佐伯　昭彦,胸組　虎胤,金児　正史,齋藤　大輔　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	5	1	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	5	5	1			3.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	8	3				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		5	3	2	2		2.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3	3	2	2		3.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		8	1	2	1		3.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	8	3				3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	7	2				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	5	3				4.1



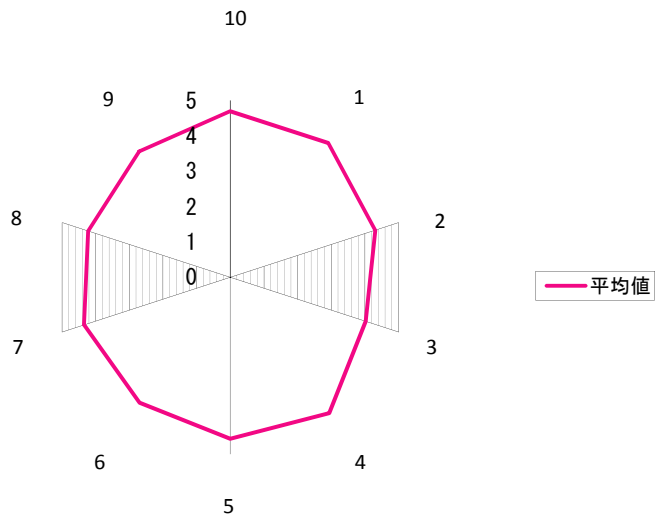
教員のコメント

総合評価では「4．1」という評価を得ることができた．本授業は，芸術を通して数学や科学を眺めたり，数学や科学を通して芸術を眺めたりすることを通して，数学，芸術，そして科学間の接点を探り，教科領域を超えた幅広い知識を基にした教材開発と思考方法を高め，他者により良く伝えるサイエンス・コミュニケーターとしての力量を高めることを目的とした．授業の大半が学生の主体的活動を取り入れたアクティブ・ラーニングであったため，質問項目(9)が一番高い評価「4．5」を得ることができ，自由記述においても学生達が主体的・積極的に取り組んだ記述が見受けられる。一方，質問項目(4)の評価が「2．9」と低かった．成績評価方法については，シラバスに記載し，かつ，最初の授業で口頭で詳細に行ったが，低い評価であった．このため，次年度の授業では，口頭ではなく紙面に記載した物を配布して説明することにする．次に低かったのは，質問項目(5)で「3．1」であった．大塚国際美術館に関する授業の12回分については，先方との日程調整のため，冬期集中講義の期間に行ったことが大きな原因であったと考える．このことは自由記述[3]の内容に「準備期間が少なすぎた」との記述が多数あったことから読み取ることができる．従って，次年度はもう少し余裕のある日程を組むように調整する必要があると考える．次に低かったのは，質問項目(6)で「3．3」であった．その原因は自由記述[3]の内容に「授業の概要についてほとんど説明がない点」の記述から読み取ることができる．しかし，本授業は学生の主体的活動を取り入れたアクティブ・ラーニングであるため，アクティブ・ラーニングでない授業と比べると教員からの説明が少ないことは事実である．こういったことが原因で学生の授業評価に影響が出るのであれば，授業の方法を学生が理解できるように改善する必要があると考える．このように低い評価項目が幾つかあったが，学生達が大塚国際美術館で説明した内容は，来場者のアンケートから推測すると非常に高く，新聞社2社に取り上げられるなど，学生達の教材開発や指導法の質向上に繋がった授業であったと考える．

結果報告書

授業科目名　伝統文化（音楽・美術）における表現の思想
評価実施日　平成27年2月24日
担当教員名　栗原　慶,遠藤　綾子　　回答者数　43　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	30	13					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	24	12	4	2	1		4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	13	8	3	1		4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	32	11					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	26	15	2				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	24	13	4	2			4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	24	13	3	3			4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	18	20	2	3			4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	15	4	1			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	32	9	2				4.7



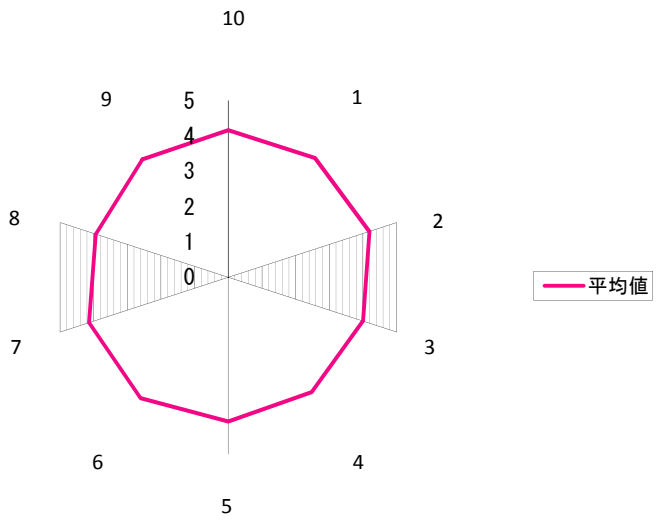
教員のコメント

今年度より開講した授業で、音楽と美術を架橋し日本の伝統的な美意識の理解を深めることを目的とした。音楽、美術の2名の教員がそれぞれの専門を基に各7回を受け持ち、最後にまとめる形をとった。講義で音楽史や美術史をたどり、その後実際に演奏や制作を行って技法を学びながら、日本の文化的思想の一端を実感してもらえるような構成とした。総合評価が4．7なので概ね受講者の評価を得ることは出来ているようだが、2や1といった評価も⑵⑶⑹⑺⑻の項目で数名から受けている。これは⑼の主体的に取り組んだかという項目と関連していて、他の授業選択から漏れた学生からの評価と推測する。広領域コア科目の選択必修科目という事で、履修者が50名以上と芸術系の実技を取り入れる授業としてはやや多く、教室の手配や備品準備に追われたが、実演や実材経験が出来たことは好評だったようだ。視聴覚設備がうまく作動しないことが間々あった為、事前調整をもう少し綿密にしスムーズな運営に努めたい。音楽・美術という二つの異なる芸術分野だが、文化的背景や思想の面から観ると共通性も多く感じられたことは、授業者としても意義のある事であった。

結果報告書

授業科目名　コミュニケーションと言語・教育
評価実施日　平成27年1月28日
担当教員名　原　卓志，伊東　治己，畑江　美佳　　回答者数　99　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	36	47	13	3			4.2
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	44	32	21	2			4.2
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	34	36	25	3	1		4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	33	38	23	3	1	1	4.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	34	43	17	5			4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	45	35	15	4			4.2
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	42	33	20	4			4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	32	38	21	7	1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	34	47	16	1	1		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	38	43	14	4			4.2



教員のコメント

コミュニケーション能力の基礎能力としての言語について考察することを通して、コミュニケーション能力育成のための手がかりを与えるとともに、異文化間コミュニケーションに焦点を当てながら異文化理解と自文化理解について，さらに言語と国家，言語と教育など，多岐にわたる話題を提供し，コミュニケーションと言語，コミュニケーションと教育に関わる問題について考えるヒントを受講生に与えることを目指した。

受講生も熱心に参加し，グループ活動を通して受講生同士の意見交換も活発に行われた。受講生の評価（総合評価が4.2）を見る限り，授業の目標は概ね達成できたものと判断される。

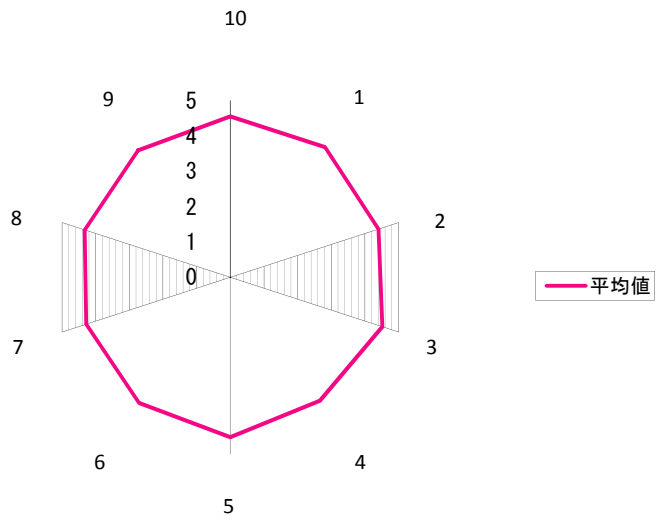
学生からは，「三人の授業担当者を通して、言葉について多様な側面から考えが深められた」，「受講生同士の話し合いを通して，言葉とコミュニケーションについて深く考え，自分の授業を見直すきっかけとなった」「わかりやすく，身近な言葉や例を取り入れた授業で，興味深かった」「これまで考えてもみなかったことについて，考えることができ，言葉の奥深さに気付くことができた」などの行為的なコメントが多く寄せられた。改善すべき点として最も多くの意見は，教室の狭さであった。教室そのものとしては，107名を収容するだけの広さはあったが，授業中に班活動を行うには狭かった。また，多人数であったことからテレビ画面やスライドが見にくかったことを指摘する学生も多かった。今後，考えるべき問題である。また，三人の授業担当者担当者の授業の進め方が異なっているため，戸惑いを覚えたとか，一貫した思考の連続が保てなかったという意見もあった。これらについては，それぞれの担当者によって，授業の目的をしっかり説明することが必要であろう。

受講生から寄せられたこれらの意見をもとに，教師の実践力を高めることにどう発展させていくか，今後の課題として授業改善に取り組みたい。（原・畑江・伊東）

結果報告書

授業科目名　教師のための声とからだとことば
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　頃安　利秀，余郷　裕次，綿引　勝美　　回答者数　75　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	47	22	6				4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	42	21	10	1		1	4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	46	20	8			1	4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	40	19	15	1			4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	48	17	8	1		1	4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	41	22	10	1		1	4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	36	25	11	2		1	4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	39	23	11		1	1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	46	16	13				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	50	16	9				4.5



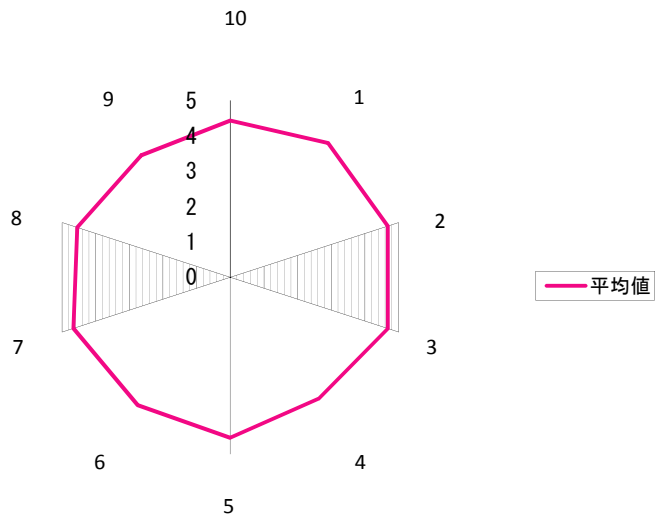
教員のコメント

この授業は異なるコースに所属する3人の教員によって行われるものである。そして授業名にあるように，「声」と「からだ」と「ことば」に視点を置いた教師としての授業力の向上を目指しており，授業の内容は実践的なものとなっている。講義を中心とした一般的な授業形式のものではない。そのため成績評価や，授業に関する資料，板書，また視聴覚機器の使用等に関しては，各教員により夫々異なっており，評価(4.3)が少し分かれるところであったのは否めない。しかし授業概要では適切にこの授業を表現(4.5)できており，それが教師の実践力の育成(4.5)につながる内容であり，授業の進む速さも適切(4.5)で，受講生の授業への取り組み(4.4)を促進するものであったと考えられる。総合的な評価(4.5)は，それらの理由から適切な評価と考えられる。

結果報告書

授業科目名　学校危機管理研究
評価実施日　平成27年2月4日
担当教員名　大西　宏，阪根　健二　　回答者数　69　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	50	17	2				4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	51	15	2	1			4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	50	17	1	1			4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	35	18	14	2			4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	42	24	2		1		4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	43	18	6	1	1		4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	50	17	1		1		4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	47	16	4	1	1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	29	9	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	40	21	6	2			4.4



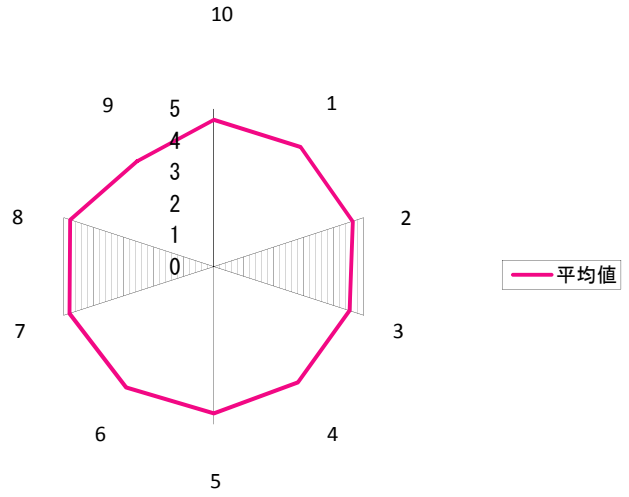
教員のコメント

総合評価の平均点が4．4となっているので，本授業は比較的高く評価されていると思われる。本授業は学校危機管理の実践的な課題解決策を習得することを目的として，学校安全・危機の実態や具体的事例を活用した授業を進めてきたため，項目1・2・3で高い評価を得ている。このことについては，記述式の欄でも多くの受講生から高い評価を得ている。また，毎時間授業レジュメや資料を提供し，パワーポイント等も適切に利用したことが項目7・8でも高い評価を得たものと思われる。項目9の評価も4．3を得ており，多くの者が授業には概ね積極的に取り組んでいたようである。しかしながら，受講生が多く，グループ討議や全体ディスカッションなどが多く取り入れることができなかったことが項目5・6に現れていると考えられる。現職教員のマスターには理解十分でもストレートマスターにはもう少し丁寧な指導が必要だったかも知れない。また成績評価の方法等についてももう少し丁寧な説明が必要だったと考えられる。さらに，いくつかの項目について評価1・2を選択していた者が数名いたことも考え併せて授業改善することを今後の課題とする。

結果報告書

授業科目名　予防教育科学
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　内田　香奈子,安藤　有美　　回答者数　38　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	12					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	10			1		4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	26	7	4	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	12	1	1		1	4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	27	9	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	29	8	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	32	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	30	8					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	15	4	2	1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	9	2				4.7



教員のコメント

本授業は、文部科学省「学校において子どもの適応と健康を守る予防教育開発・実践的応用研究事業」の一貫として開講された授業科目であり、大学院では今回で4度目の開講となる。総合評価として4.7の評価となり、概ね高い評価を得たものと思われる。

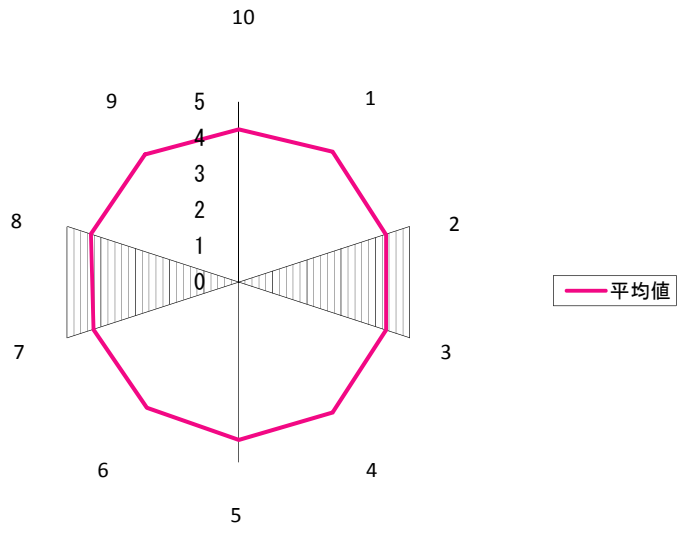
昨年度は(2)専門的知識へのアプローチ面、(3)教師の実践力の育成面、(5)授業の進度面、の3点が4.4と、他と比べ相対的に数値が低かった。そこで、今年度は各単元において、少しでも最新の研究知見を取り入れる、現場での実施の様子などを織り交ぜながら講義を行う、学生の質問を授業中に受け付け、その場で質疑応答を行い、理解度を確認しながら授業を進めるなどの取り組みを行った。その結果、各評価の改善へとつなげることが出来た。また、本講義ではグループワークやディベートを多く取り入れた授業を展開しているが、他コースの学生と分野を超えて意見交換が出来る点などが、昨年同様、大変好評であった。

ただし、一部の学生より、特定の学生ばかりが発言するのではなく、多くの学生の発言や意見を求める声があった。今後は、発言をすることが苦手な学生に対するアプローチを強化したい。

結果報告書

授業科目名　教育認知心理学演習
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　皆川　直凡　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	7					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	7	1				4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	7	1				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	7					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	6	6	1				4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	5	2				4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	6	2				4.2
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	6	2				4.2



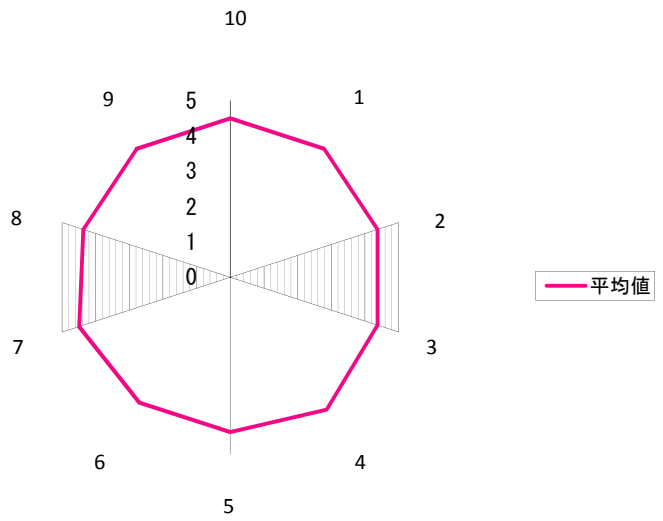
教員のコメント

本授業に対する総合評価は平均値が4.2であるとともに，評価4以上を選択した回答者が13名中11名（85%）を占め，さらに10名は全項目に対して4以上の評価をしたことから，おおむね良好であったと言える。一方，（6）（7）（8）の3項目では評価3の受講者が2名おり，改善の方向性を指し示している。因みに，総合評価を2とした受講者2名のうち1名は残り9項目中7項目で評価4を付けた（評価3は2項目にとどまった）のに対し，もう1名は評価3が5項目と半数を超え，この1名だけが他の受講生と比べてきわだって評定値が低いことがわかる。本科目は高い水準に目標をおく専門科目であり，すべての受講者の要望に応えることは難しいが，専門科目としての質を落とさないことを最優先に，できるかぎり多くの受講者のニーズにも応えられるよう努力したいと考える。

結果報告書

授業科目名　発達健康心理学演習
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　山崎　勝之　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	4					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3	1				4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2		1			4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	3	1				4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1				4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	4					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	5					4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2	1				4.5



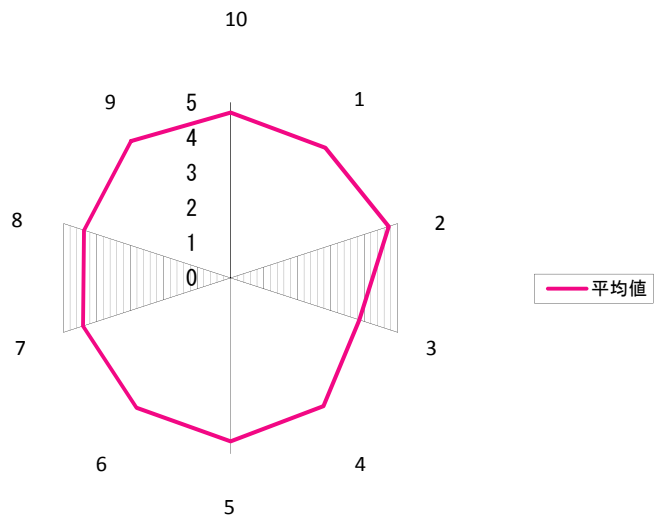
教員のコメント

やはり演習はむずかしいと感ずる。どこまで深みに入り、どこまで学生の持っているものを自ら引き出させるか。これぞ、大学院授業という授業を展開したつもりだが、学生にとっては慣れない授業であったかもしれない。
しかし、独創的に考え、その考えをアピールするように発表させる方途は間違っていないものと思われる。問題は、考える問題の設定、考えて発表するまでの道程にさらにわかりやすい道標を立てることであろう。恐らくこの手の授業は、鳴門教育大学には他にないと予想する。それだけに、授業の在り方を模索しながらその運営を極めてみたいという授業感となった。学生は真摯に参加し、十分に課題をこなした。その姿勢に支えられての授業であったと思う。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学演習
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 中津 郁子, 小倉 正義, 久米 禎子, 新見 員子, 栗飯原 良造　回答者数　34　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	22	10	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	7	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	9	9		3		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	20	11	3				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	24	8	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	22	10	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	21	8	4		1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	10	4	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	6					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	4	3				4.7



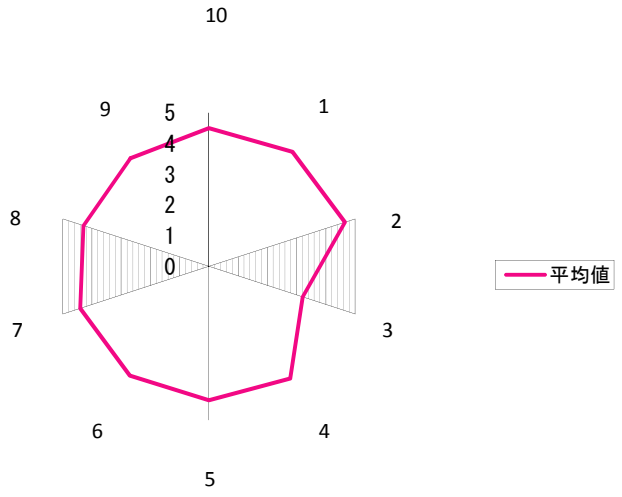
教員のコメント

質問10項中7項目での評価が4.5点以上、特に(10)の「この授業を総合的に評価すると,よかったと思う。」の評価では4.7点と評価されて おり、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考える。なお、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては、評価の平均点が3.9点であった。これは決して低い評価という訳ではないが、今後とも臨床心理士の実践の場として学校臨床は重要な位置を占めており、本授業で体験的に学んだ内容も学校現場での相談活動、教員との連携における実践力と関連することを明確に伝えるようにしたい。自由記述では小グループの授業ならではの体験の深まりや、受講生自身が主体的に活動する場になったこと、あるいはケース担当に実践的な内容であった点などが評価されていた。授業に関する不満や改善点については「他のグループの様子も見れたらと思ったが難しいかもしれない」と意見があり、本授業の特性上確かに実現は難しいと思われるが、今後も引き続き受講生の満足が得られる授業となるようにアンケート結果も活用し十分な配慮を心がけたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅱ
評価実施日　平成27年2月18日
担当教員名　葛西　真記子，今田　雄三　　回答者数　34　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	23	9	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	24	8	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	6	16	5	2		3.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	20	11	3				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	17	13	3	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	8	5	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	18	13	2	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	16	12	6				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	15	2	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	19	13	2				4.5



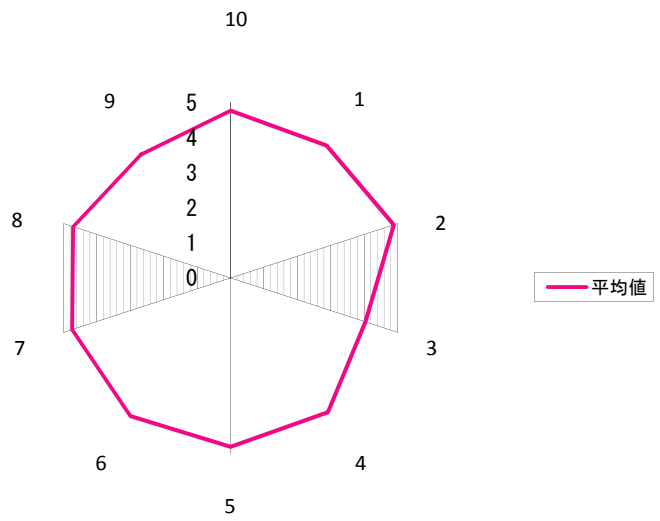
教員のコメント

本演習の全体的評価は、昨年同様高評価であった(平均4.5)。また、評価の低かった項目「教師の実践力の育成につながる内容であった」についても昨年の同様であった。本演習で学習目標としている投影法のロールシャッハテストは学校現場で用いられるものではなく、教師の実践力の育成にはつながらないと思われる。またそれを目的としていない。本演習の目的は、臨床心理士として必要な投影法の基礎を学び、臨床の現場で使用することができる能力の育成である。他の項目においては、すべて4点以上であり、おおむね高評価であったといえる。自由記述の項目から、本演習の評価をまとめると、「この授業でよかったと思われる点」としては、「専門的な投影法であるロールシャッハテストが学べたこと」、「検査を実践的に学ぶことができたこと」、「皆と協力的学べたこと」、「自分のことがわかったこと」、「少しずつ解釈ができるようなったこと」などが挙げられていた。これらは、本演習を小グループによる発表形式と全体説明を行い、また解釈する内容も実際のケースでのテスト結果を用いたことが評価されていると思われる。次に本演習で改善すべき点についてであるが、「特になし」という回答が多かった半面、「難しくて、授業についていけないと感じた」「ロールシャッハだけでよかった」「他のテストも学びたかった」と相反するものもあった。途中で確認テストを行ったが、今後は、その低得点者への補講や、フィードバック等も必要であろう。また、スコアリングがあっているかどうか確認したい受講生も多く、その段階でのチェックも今後の課題である。最後に各受講生は、「授業に主体的に取り組んだかどうか」の項目について、「休むのついていけないくなるので、休まず受講した」という回答が多く、限られた時間で専門的なロールシャッハを学びたいという高い動機を感じることができた。

結果報告書

授業科目名　心理療法研究
評価実施日　平成27年2月6日
担当教員名　古川　洋和　　回答者数　35　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	7	1	1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	2	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	9	7	1	2		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	26	8	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	29	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	31	3	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	27	7	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	27	6	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	14	3	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	6	1			1	4.8



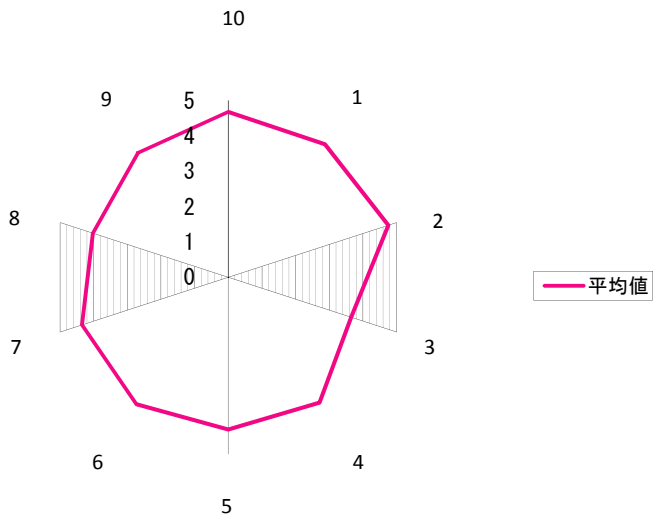
教員のコメント

授業の内容については、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」の項目で評定値が低くなっているものの、当該科目については教師の実践力ではなく心理士の実践力の育成を目的としているため、概ね高い評価を得ていると考えられる。また、授業の進め方および総合評価においても高い評定値を得ているため、今後も同様の内容で授業を構成することが妥当であるといえる。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅰ
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　中津　郁子，久米　禎子　　回答者数　37　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	28	5	4				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	4	1	1			4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	4	14	2	3		3.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	22	9	4	2			4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	18	13	5	1			4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	22	11	2	2			4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	19	13	4	1			4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	14	11	11	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	15	3	1			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	28	7	1	1			4.7



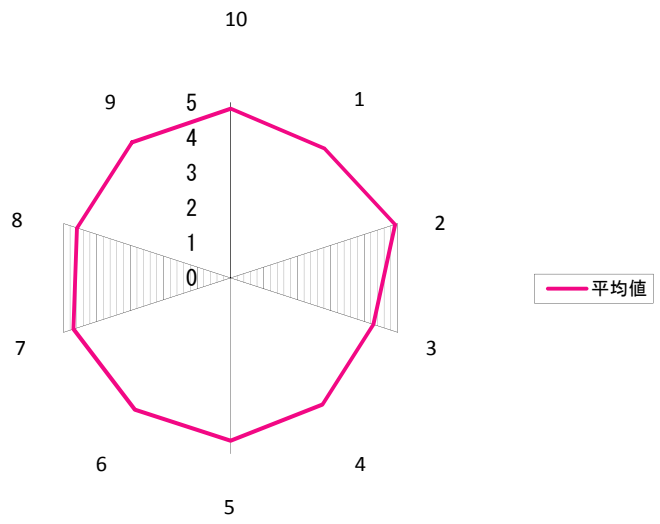
教員のコメント

例年，前半は講義形式の多い授業だが，演習も入れ，振り返り用紙を使って学生の反応を確かめつつ行なっている。後半のグループごとの調べ学習形式の授業では，進み具合を確認しつつ行ない，最後に全体的な振り返りを行なった。総合評価が4．7であり，昨年同様，概ね学生にとって満足のいく授業であったと考えられる。自由記述の中では，【2】よかった点として，「文献をたくさん読み」，「主体的に学習」することで「自分を見つめることができ」「考える姿勢を学べた」ということを多くの人が挙げていた。また，「専門知識を教わることができた」という意見や，グループ発表によって話し合いや発表などは「大変だった」が「考える姿勢を学ぶことが出来た」という意見が多く見られていた。しかし，【3】改善すべきとする点でも，グループ学習に関する不満が書かれており賛否両論があるようだ。その内容は「レポートが多すぎる」，「講師の先生からのレクチャーがもう少し欲しい」というものだった。昨年と比較すると，挙げられていた内容が変化しており，昨年度を受けての改善が反映されているようだが，さらに今後検討の必要がある。【4】授業に積極的・主体的に取り組んだ理由では，「自分の意見を主張することができた」，「話し合いを積極的に持とうとした」などの意見が多かった。また，やや評価が低かった人は，「自己を見つめることを恐れて休んでしまった」「体調を崩してしまった」という内容だった。この点に関しては個々人に注意を向けながら配慮していきたい。【5】その他，感想のところにも数人の学生の記述が見られていた。「後期の授業で一番自己成長を促してくれた授業だと思う」という意見や謝辞もあったが，「グループ間で評価の基準が異なっていたように思った」や「グループ発表でなく先生の講義が聞きたい」などの不満もあった。総じて，今年度も，この授業が学生にとってはインパクトが強く，概ね良い評価なのだが，学生の中には，心を揺さぶられ，治まりがつきにくい人もいたようだ。昨年に引き続き，なお一層，個別の配慮が必要かと考えられた。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学演習
評価実施日　平成27年2月6日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　40　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	25	12	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	38	1	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	11	7		1		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	12	5				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	27	11	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	27	11	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	30	8	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	27	10	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	7	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	33	5	1			1	4.8



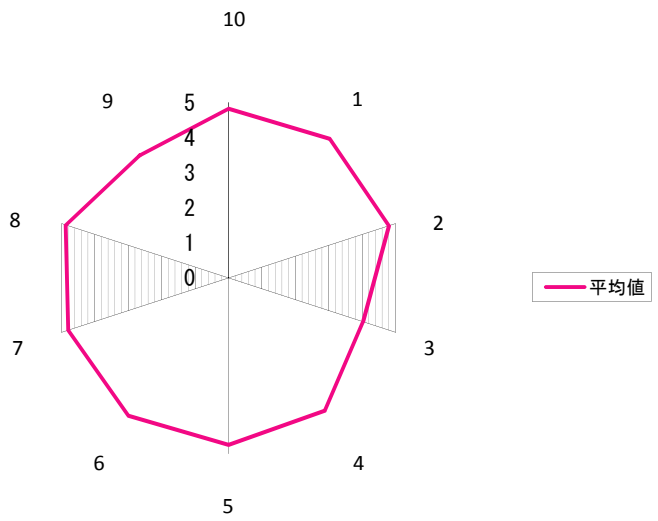
教員のコメント

質問10項目の9項目において評価の平均値が4.5点以上であった。特に(10)の「この授業 を総合的に評価すると,よかったと思う。」の評価では4.8点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考える。なお質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しても、評価 の平均点が4.3点と、昨年度の評価である4.5点からやや低下しており、次年度は臨床心理士の実践の場として重要な位置を占めている学校現場でのアセスメント、相談活動、教員との連携についての知識・実践力の養成という観点を強調し、本授業に教師の実践力育成とつながる内容を盛り込むように心がけたい。なお、授業の改善点として自由記述に、少数ながら授業配分に関する意見が寄せられていたが、内容は「ディスカッションの時間を増やして欲しい」というものと、「ディスカッションの時間がしんどい」という意見とががあり、この相反する意見をいかに両立させるのかについて難しいと思うが検討していきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学統計法
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　古川　洋和　　回答者数　39　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	35	4					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	33	5		1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	12	8	2	1		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	27	11	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	30	8	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	33	6					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	32	6	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	35	3	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	11	8				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	33	5	1				4.8



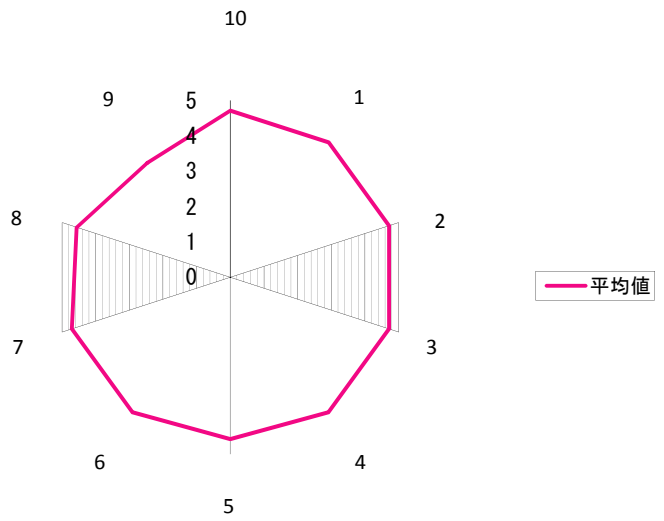
教員のコメント

授業の内容については、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」の項目で評定値が低くなっているものの、当該科目については教師の実践力ではなく心理士の研究力の向上を目的としているため、概ね高い評価を得ていると考えられる。また、授業の進め方および総合評価においても高い評定値を得ているため、今後も同様の内容で授業を構成することが妥当であるといえる。

結果報告書

授業科目名　幼年期福祉演習
評価実施日　平成27年1月29日
担当教員名　木村　直子　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	3					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	2				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



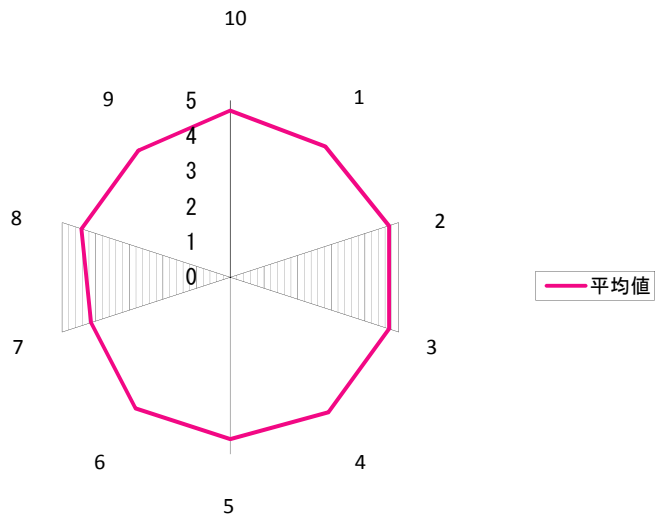
教員のコメント

今年度は受講生も少なく、授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができる状況にあった。例年感じていた受講生の予習・復習・授業外学習の少なさという課題に関して、今年度も、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていくための授業改善を試みた。演習は大きく2つの側面から構成した。1つは、具体的なケースについての処方箋や援助の方針を考える事例研究、もう1つは、援助や援助者の価値に関わる古典を読み深めるレビュー研究である。その結果、受講生の反応としては、予習・復習など主体的・積極的な参加に差を生むことになった。古典の世界に入り込むことのできた学生はより積極的に取り組んでいた一方、その内容の本質を理解できずに、苦悩した院生もあったように感じる。古典における理論的枠組みを現実のケースの中で活用していくことの意義を、院生に伝えたいと考えているが、今後は課題の提供の仕方に工夫が必要であると感じた。また、アンケートの自由記述式部分では、授業に対する肯定的な意見が多くみられ、積極的に授業に挑めたという一方で、マーク式の回答部分では、積極的に取り組めたとは、自己評価しづらい院生も若干名存在した。今後は、院生自身が自信をもって授業に取り組めるような試みも必要であると感じた。

結果報告書

授業科目名　幼年発達心理演習
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　田村　隆宏　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6		1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	4	1				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	4					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4					4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



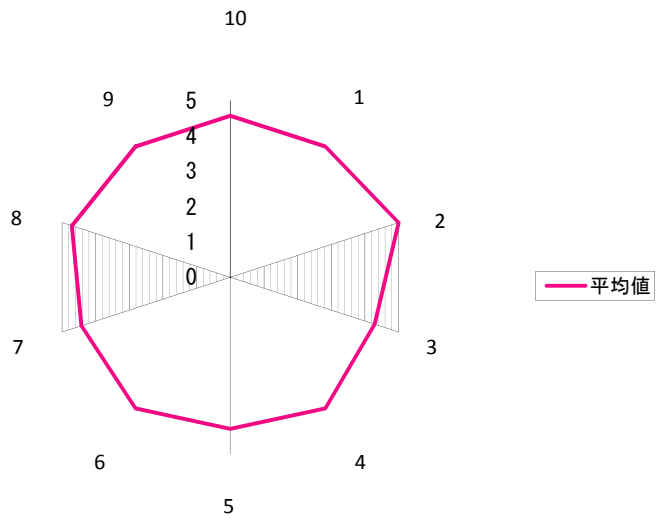
教員のコメント

すべての質問項目において4以上の平均評価点を得ていることから，概ね高い評価を得た授業内容であったと判断される。ただし，質問項目「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」と，「(7)教科書や配布された資料は，適切であった。」については，わずか1名ではあるが評価点3をつけた受講生もいたことから，今後の授業では，さらに専門的な知識を深めることに貢献する内容を検討することと，配付資料についてより適切なものを検討することが必要である。

結果報告書

授業科目名　幼年期教育学演習
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　湯地　宏樹　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3					4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1	1				4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	1	2				4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2	1				4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	3					4.6



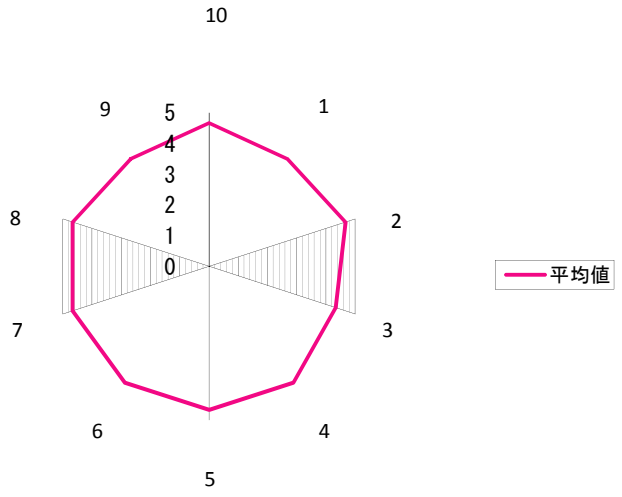
教員のコメント

今年度の受講者は9名であった。本演習では，実証的かつ理論的に究明するための研究方法及び研究発表の方法などを修得することを到達目標としている。そのために前半は，倉橋惣三著『幼稚園真諦』フレーベル館を購読し，受講生が1章ずつ担当してまとめ，プレゼン発表し，それをもとに討論した。後半は，一人約45分間の模擬授業を行った。それぞれにテーマを工夫し，導入・展開を考えて授業したり，演習課題を取り入れたり，討論においても積極的に発言していた。授業評価に関しては，総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」は4.6と，25年度5.0，26年5.0と比べて低くなっていた。その他，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」「(5)授業の進む速さは，適切であった。」が4.3と最も低い評価だった。4つの項目に「3」の回答もみられた。学生の主体性の項目「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」については4.6で，自由記述に「パワーポイントを作成したから」「いろいろな文献を読めた」「自分が先生になって授業をする形式で1つのテーマについて調べたり発表したりしたから」とあった。来年度は，学生が主体的に取り組めるように模擬授業や演習形式は継続しつつ，英語などの文献の購読も行いたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　幼年発達と幼児教育内容論演習
評価実施日　平成27年1月28日
担当教員名　塩路　晶子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



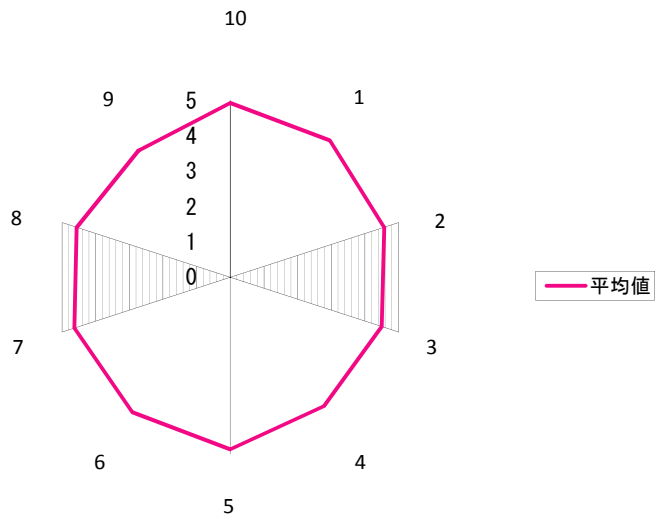
教員のコメント

本授業は、幼児教育内容についての文献研究の手法を学び、自らの問題意識を深めることを到達目標としている。学生からの授業評価アンケートにおける自由記述の中でも、歴史的文献を丁寧に読み解くことは、受講生の興味を喚起したとの記載があり、到達目標はおおむね達成することができたと考えている。今後も幼児教育実践につながる思想的・歴史的背景に関する文献等も取り上げていきたい。

結果報告書

授業科目名　現代総合学習論
評価実施日　平成27年2月13日
担当教員名　小西　正雄，谷村　千絵　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	3	2				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	2					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	3	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	4	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	8					4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13	1					4.9



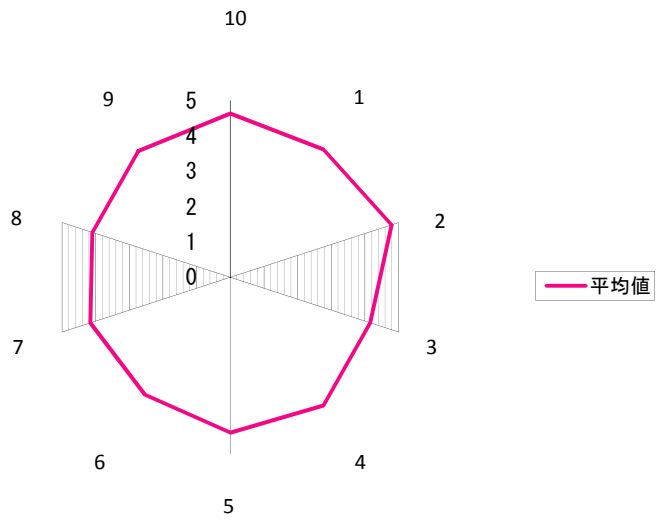
教員のコメント

概ねよい評価であった。自由記述欄には、教育とは何かということを考えさせられた、とのコメントがあった。

結果報告書

授業科目名　現代教育人間論
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　谷村　千絵，近森　憲助，太田　直也，田村　和之　　回答者数　19　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	10					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	4					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	8	4				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	6	2				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	11	5	1		1	1	4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	9	4				4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	10	3				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	11	3				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	9	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	7					4.6



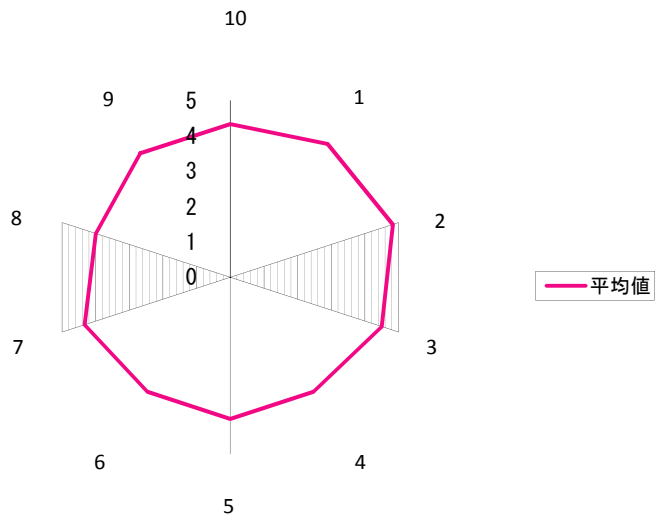
教員のコメント

授業の進む速さについて、評価が分かれているが、自由記述には、「基礎知識があればもっとわかったかもしれない」や「分かってない人向けの説明があってもよかった」、「広く浅くという感じ、つめこみすぎ」というコメントが見られた。本講義は、大学院の演習にちかいもので、概論的、解説的な内容ではないため、これらのニーズにすべて答えられない面もあるが、工夫を試みたい。もっと勉強が必要だとおもう気持ちにつながったのであれば、授業としては成功であるとも考えている。他には、刺激になった。考えさせられた、ガツンときた、など、授業に主体的に取り組む姿勢のコメントも多数あった。

結果報告書

授業科目名　総合学習カリキュラム開発特論
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　村川　雅弘　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		3				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1		1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2	1				4.3



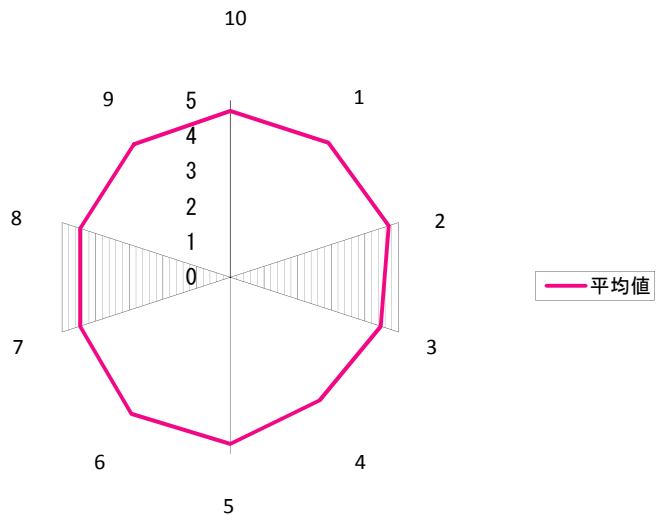
教員のコメント

受講生の人数は少ないが，いずれの項目も平均4.0以上であり，概ね満足してもらえたと考える。特に，授業者自身が重要視している「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」と「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」は，4.8と4.5と高い評価を得ている。学校現場の実践をしっかりと読み解き分析・協議し，その成果を自分の言葉でまとめさせる方法が有効だったと考える。「(4)成績評価の方法の説明」(4.0)については，事例から読み取った総合的な学習の単元づくりのノウハウを自分の言葉でまとめるというレポートは，どう評価されるのかが明確に伝わっていなかったと反省する。「(5)授業の進む速さ」(4.0)についても，中身のこい事例も1コマで2つ取り上げ協議したことは盛りだくさんの感があった受講生もいると思われる。「(6)受講生に分かりやすく説明した」及び「(8)板書や視聴覚機器の使用」に関しては，受講生との及び受講生同士の協議が中心の展開だったので4.0にとどまったと考えられる。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　谷村　千絵，金野　誠志　　回答者数　17　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	5					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	1	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	5	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	3	3	1			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	13	3	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	4					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	6		1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	5	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	4	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	5					4.7



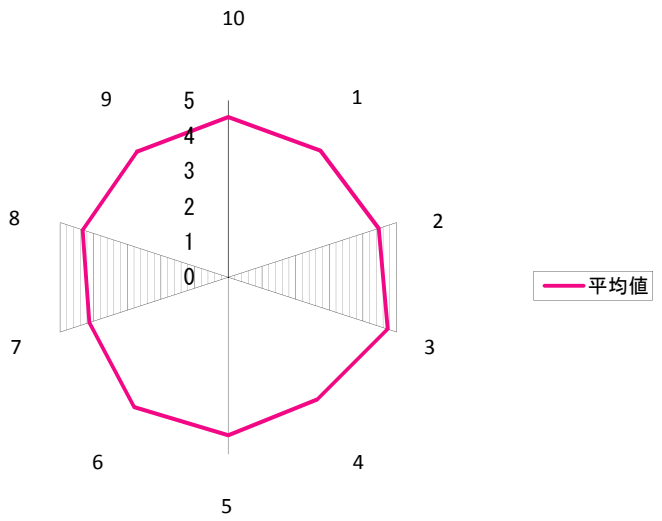
教員のコメント

「大学院らしい授業でよかった」「本を読んでディスカッションするのが楽しかった」等、概ねよい評価の自由記述がとても多く、このような学生に出会えたことが素晴らしいと思われた。ただ、成績評価の方法と教材の選択について2を記した学生もいたので、説明を丁寧にするよう留意したい。なお、テキストの選択については「先生の選んだ本がよかった」「子どもとは？、大人とは？、教育とは？と深く考える内容だった」、「本が面白かった」などのコメントもあったので、テキストは引き続き、来年度も使用したい。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅡ（実践研究A）
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　金野　誠志，小西　正雄　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	6	1			1	4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4	2				4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	5	3				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8	6	1				4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	11	2	1	1			4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	7	3				4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	4	1		1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	7	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	5	1				4.5



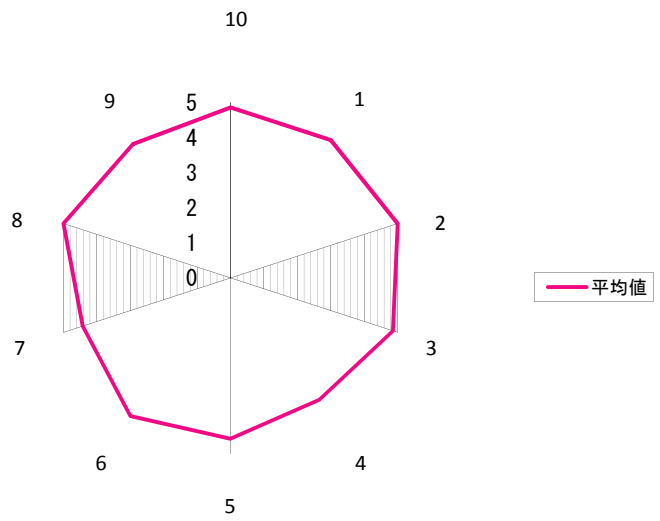
教員のコメント

おおむね授業の内容及び進め方は、適切であったとみなされる評価であると考える。「受講者にわかりやすい説明」と「教科書や配付資料の適切な使用」に関して、低い評価をした院生が各1名ずついる。「わかりやすい説明」に関しては、院生のレディネスが大きく作用するためオリエンテーションにおいて、しっかり説明し納得した上での受講を勧めたい。「板書や配付資料」については、院生がノートに講義内容を書き写す無駄を省き、授業での議論やグループワークに積極的に参加できるよう、視聴覚機器を用いて授業の内容や資料を提示し、提示したものは全てペーパーに印刷して配布したため適切であったと考えている。総合的な評価も4.5あるため基本的には今年度の内容と方法を踏襲しつつ、次年度は、評定3が少しでも減るように工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅰ（基礎研究）
評価実施日　平成27年2月13日
担当教員名　田村　和之　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5		1	1			4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	1	1				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2	1				4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



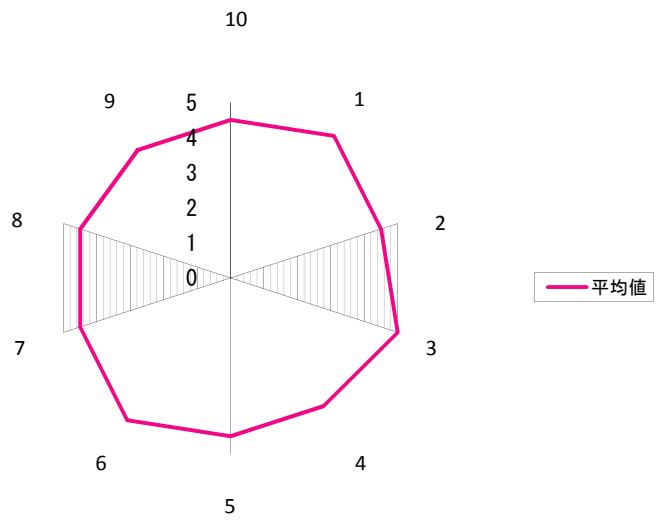
教員のコメント

授業では発表と質疑応答（ディスカッション）を中心としたスタイルで進めた。このスタイルにより受講生が自ら考え、様々な意見に触れる機会が得られ、非常に良い授業となったと思われる。
ただし、評価方法について多少曖昧なところが有ったことは来年度の授業で、例えば、意見交換時にお互いに評価を行うなどの方法を加えることで改善したい。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅲ（実践研究B）
評価実施日　平成27年2月17日
担当教員名　田村　和之，近森　憲助　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



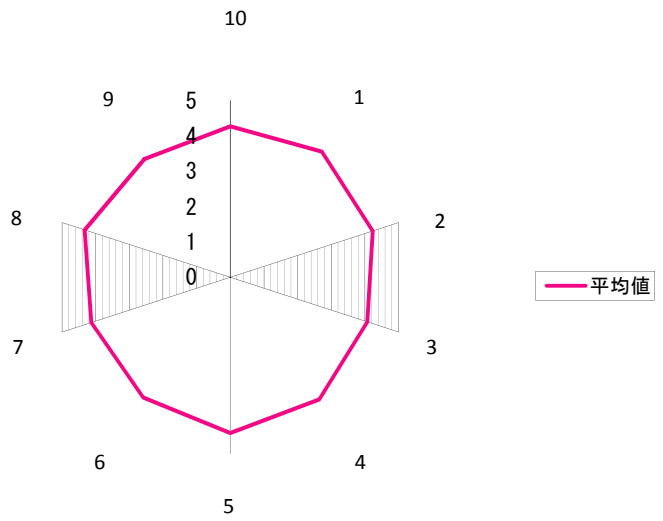
教員のコメント

受講生が2人だったので、教員と共にかなり奥の深いところまで環境教育についての意見交換の出来る授業となった。
学生によるコメントでは特に不満な点も伺えず、学生にとっても環境教育をどのように実践していけば良いのかがしっかりと伝わったようである。
来年度の受講生が何人になるかまだ不明だが、出来るならば、本年度のような奥の深い授業を続けたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と学校教育Ⅱ
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　30　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	15		1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	7	8				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	9	6	1	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	10	4		1		4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	16	10	4				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	7	5	1	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	12	5		1		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	10	5				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	9	7	1			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	9	3	1	1		4.3



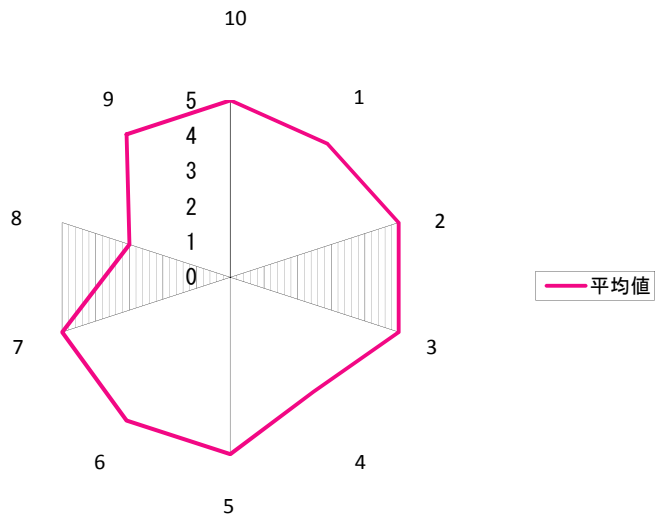
教員のコメント

今回も好評を得ることができた。質問5は、かつては「速すぎる」という指摘が多かったのでとくに留意したところ、その効果が如実に現れたので
よかったと思っている。強いて言えば質問3が相変わらず若干低い数値であるが、これは以前から指摘しているように学生側の「役立つ」という
表現への解釈の違いによるものである。「すぐ役立ちそう」か「いずれ役立つだろう」かの違いを認識することは難しく、設問の難しさを否めない。
本講義も今年度が最後となるので、学生の感想等を十部にふまえて有終の美を飾りたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実践論
評価実施日　平成27年2月5日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		3					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1					2	5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					2	5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1					2	5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。			1			2	3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



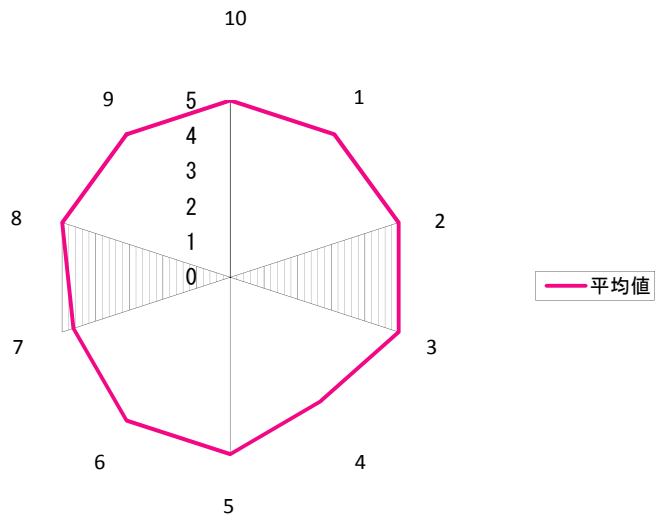
教員のコメント

この授業は「論」の枠の中で「実践」を行っている授業である。「実践」と「論」とのつなぎは、教員が実践後のカンファレンスを通して行っている。実際の指導場面を振り返ったり、指導場面を見学している保護者からの情報を伝えたりするなかで、次週の実践への指導内容の改善や関わり方の改善などを綿密に図ることができたと考える。自由記述にもあるように、どの院生も精一杯この授業に取り組み、熱心に真摯に子ども達の成長促進に向き合えていた授業である。特別支援教育は、ティームティーチングが行われることが多く、指導者間の意思疎通が重要である。この実践的授業では、指導者間の疎通性の維持や高め合いの経験も重要なポイントであり、今回は話し合いや教材教具作りに時間をかけるなど行きのあった指導を展開することができていた。何よりも子ども達の成長に保護者が満足し、それを目の当たりに見ることができ、院生の指導者としての努力の結果と考えられる。

結果報告書

授業科目名　社会資源開発運用・連携論
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



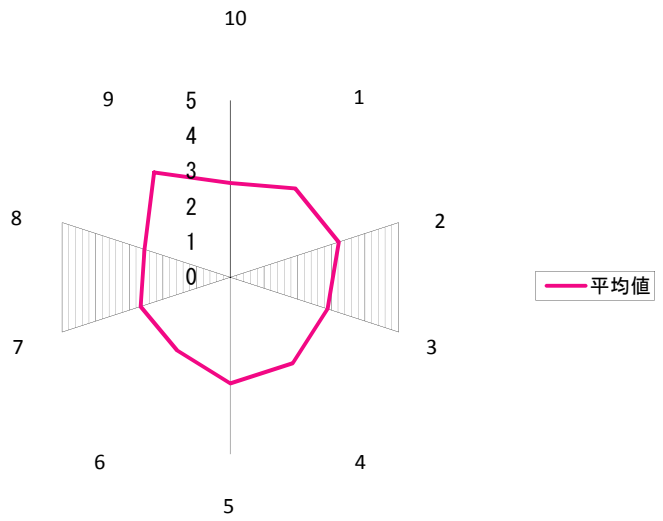
教員のコメント

特別支援教育コーディネーター養成には、学校の諸問題を取り上げ、院生自身が解決策を見いだして行くことが学習の中心と考えているため、教科書の使用は考えていない。毎回、パワーポイントで授業資料を作成し、その内容に添って協議したり、講義したりしている。この授業も、実際に自分自身で、資源を開発できなければ、学校現場に戻ってコーディネーターの役割を遂行することは難しいと考えている。そのため、講義を聴いて学ぶという事より、講義を一つの材料として、自身の考え方や、実際の学校に役立つ資源を開発することができ、どのように運用するかという自身の考えを構築させることに目的があると考え進めた。また、地域のコーディネーターをリードする意味においても、資源開発ができる事、それを持ってして地域のコーディネーターをまとめたりリードすることができるようになることを期待している。院生の自由記述において、おおむね良好な評価が得られており、第一に、院生自身が積極的に授業参加できたことを述べていることがこの授業の成果ととらえ、次年度も同じように展開するつもりである。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育課程特論演習
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　高橋　眞琴　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2	4	1	1		3.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3	3	1	1		3.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	4	2	1		2.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1	5	1	1		3.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	2	4		2		3.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	3	1	3		2.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1	3	2	2		2.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1	3	1	3		2.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	4	4				3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1	2	4	1		2.7



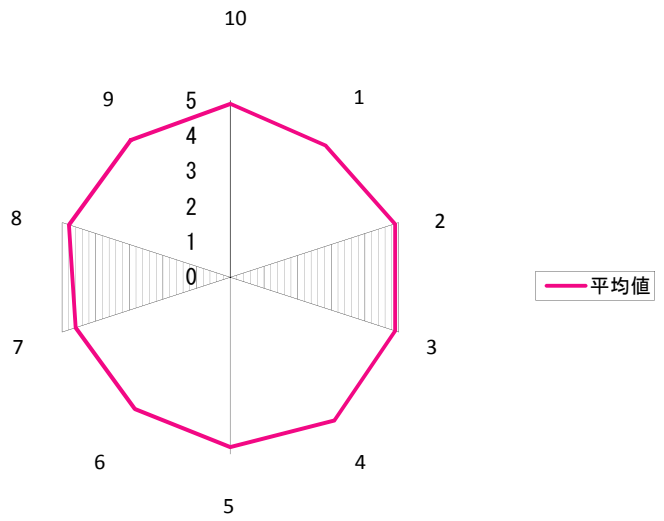
教員のコメント

本演習においては、平成25年度の総合評価の平均値が5.0であったのが、平成26年度は、2.7に下落している。平成25年度の受講生は、本報告の作成日現在、全員現職教員として学校現場に勤務しており、平成26年度の受講生は、現職教員を全く含まない長期履修生6名、大学院生3名であった。授業については、演習ということで、各回のテーマを設定し、受講生が自らの研究関心に基づいて、自ら文献を収集し、発表し、ディスカッションする方式をとっていた。ただ、特別支援教育の初学者で、学校現場での経験がほとんどない学生が大半であり、授業実施期間中に、自身の特別支援教育実習、海外研修、入院加療等の事由で、複数の学生が複数回欠席している状況もあった。個々の欠席者には、欠席に対する対応を伝達しており、授業時には、視聴覚機器の使用も行われ、学校現場での具体的な事例についても複数言及したのであるが、当該内容に係る項目に対して、低い評価を行っている学生もおり、学生によるこのような結果については、非常に残念に考えている。尚、平成27年度のシラバスにおいては、「大学院の授業であるため、特別支援教育や各障害種に応じた教育に関する学部段階の基礎的知識があることを前提としている」と明記している。平成25年度と平成26年度の差異が大きかったこともあるため、複数年の授業実践に対する評価を参照したうえで、授業改善については、検討していきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育指導特論演習
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	4					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	4					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1					4.9



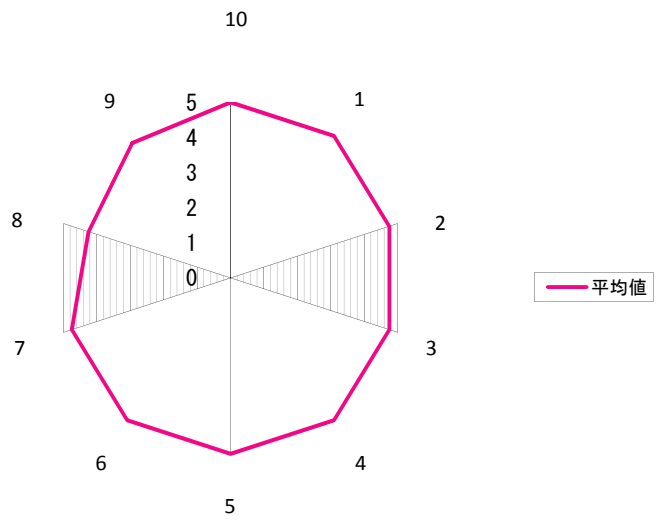
教員のコメント

受講生の評価は、4.6以上であり、比較的高い。授業内容に関しては、「専門的知識を深めるのに役立つ内容」および「教師の実践力の育成につながる内容」が、共に4.9であったことから、受講生の専門的知識を深め、教師の実践力の育成につながったと解することができる。授業の進め方に関しては、成績評価の方法の説明に対する評価が5であり、妥当なものであったといえる。また、授業進度、および機器を用いての説明についても評価が高く、総合的に、受講生にとって、満足できる講義であったと思われる。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床支援技法演習
評価実施日　平成27年2月6日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



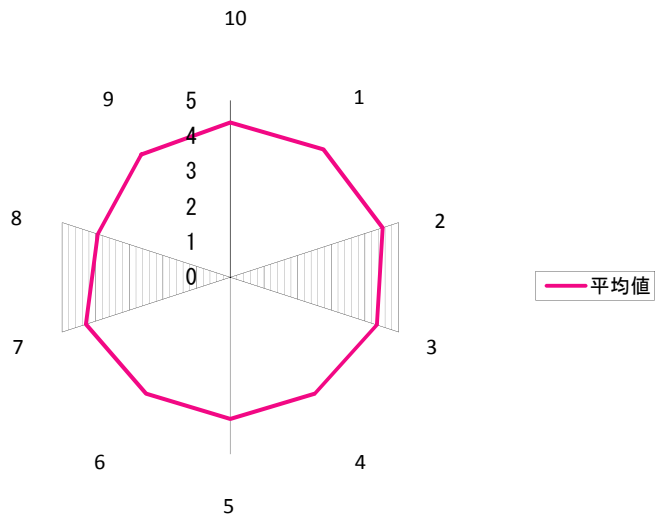
教員のコメント

本授業では毎週の予習が欠かせず、また当日は授業内での討議に積極的に参加することが求められていた。そのため、受講生にとっては準備段階で自ら学び得るもの、そして授業中の討議から学び得るもの、それぞれに学ぶところがあったと思われる。自由記述からは、授業を通して得たことを各自の論文執筆や今後の行動へ活かそうとするコメントが複数見られ、習得した知識を自ら応用、実践する意識が感じ取れた。このようなことから、授業の意図は充分に伝わっていたと感じられる。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学習支援演習
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　島田　恭仁　　回答者数　17　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	7	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	8					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	9	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	8	4				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	10	2	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	11	1	1			4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	10	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	11	2	1			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	12					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	8	1			1	4.4



教員のコメント

10項目中2項目(問2･9)で，受講生17名全員が5または4の高い評定を行ったことから，本講が専門的知識を深めるのに役立つ内容であったこと，受講生は授業に主体的･積極的に取り組めたことが確かめられた。特に，問2では5の評定が多く，評定平均値も高かったことから，授業概要に示した具体的な到達目標(種々の心理検査の結果に基づいて，知的障害児や発達障害児の個別指導計画を立案する方法を体得する)を達成できたと言うことができる。

また問1･3･7でも17名中16名が5または4の高い評定を行っていたことから，授業概要が授業内容を適切に表現していたこと，教師の実践力の育成に役立つ内容であったこと，配布した資料が適切であったことも分かった。

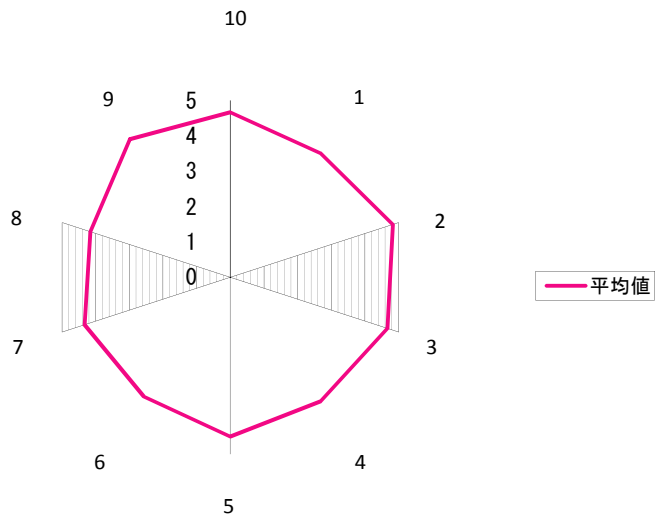
グループワークを中心にして授業を展開し，近年開発された新しい検査であるWISC-ⅣとKABC-Ⅱ(認知尺度)の実習をグループ単位で周到に実施したことが，功を奏したと思われる。また，実習で得られた検査結果に基づいて仮想事例を設定し，事例に役立つ個別指導計画と指導課題の作成について，グループ内でディスカッションしたことが，教師としての専門性と実践力の育成に役だったと言える。そのため，「問10:この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」においても，4.4の高い評定平均値を得ることができた。

しかしながら，問5･6･8では2の評定も見られたことから，特別支援教育や心理検査に馴染みが薄く，授業を難しく感じる受講生もいたことが分かった。従って，年度ごとの受講生の実態にあわせて，授業の進度や難易度を調整すること，より一層理解を深めるためにパワーポイント等の機器を使用すること，等の工夫が必要と思われた。今後の検討課題としたい。

結果報告書

授業科目名　発達障害児支援医学演習
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　津田　芳見　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	2	1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	1				4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5		1				4.7



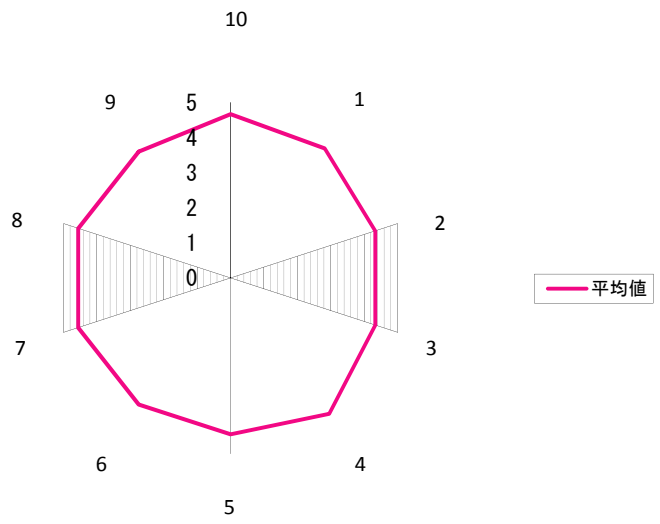
教員のコメント

総合評価において、4．7と高い評価をうけた。
授業の内容を、できるだけ、教育現場で必要な医学的支援に関する者に調整した。
また、学術性の高い論文についてもp、必ず含めるように促した。
実践的な内容を踏まえつつ、学術的な内容も探究してくれたので、良かったのではないかと考える。
少人数であったので、充分に自由に討議することができ、興味深かった。

結果報告書

授業科目名　発達障害児神経学演習
評価実施日　平成27年2月6日
担当教員名　田中　淳一　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1	1				4.7



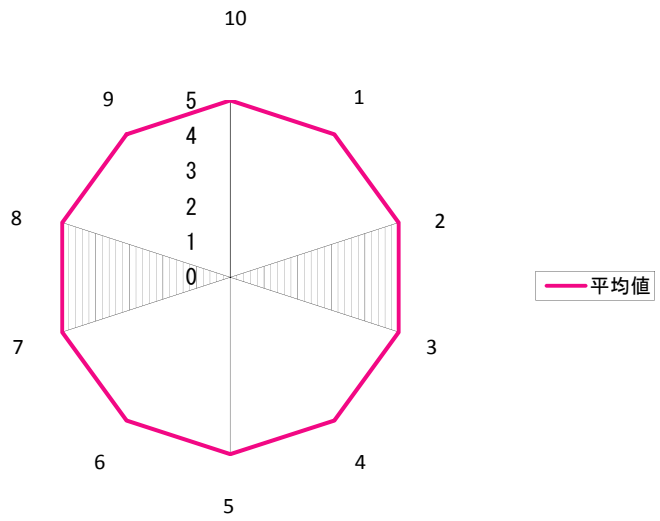
教員のコメント

各質問項目ともに平均値が4,3を上回っており、総合評価が4,7であることから、ある程度の適切な授業が出来たと推察される。専門用語が多いだけに理解しやすいような説明に努めたつもりである。授業内容は、昨年度よりもより興味のあると思われるものを多くした。この分野は興味、関心のある学生が受講するので、熱心に授業を受けてくれたように思われる。ただ、いくつかの項目で3との評価が見られるので、今後はすべての項目で3の評価をなくすようにしたいと考えている。授業方法も大きな問題がなかったように感じられる。アンケートでの良かった点、悪かった点のほとんどは空白であり、具体的に指摘して頂ければと感じた。

結果報告書

授業科目名　日本事情・日本文化
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



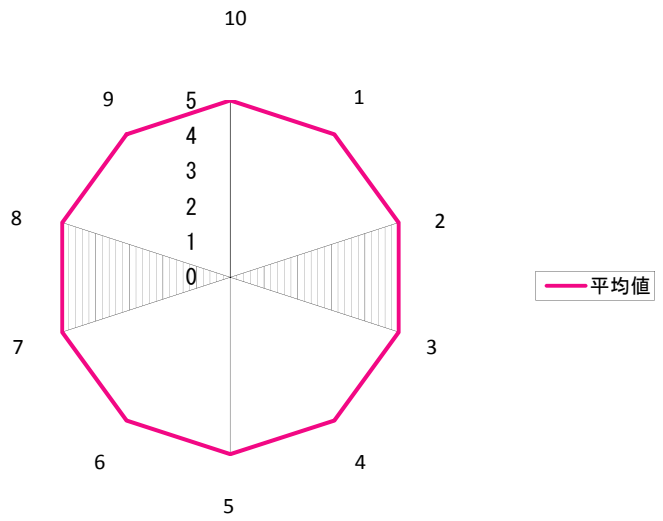
教員のコメント

この授業では，留学生に日本の社会や日本人の考え方について理解を深めてもらうとともに，留学生が自分の考えを日本語で適切に表現できるようになることを目指しました。この授業には，聴講者を含めると，大学院生だけでなく，研究生や特別聴講学生など，留学目的・出身国・日本語学習歴など様々な点で異なる学生が多数参加していたため，それぞれの観点から日本での経験や発見を発表し合うことができました。また，日本の文化や日本人の考え方を学ぶだけでなく，互いの文化や考え方を教え合うこともできたので，日本の理解に留まらず広く「異文化」理解に繋がる授業となりました。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅲ
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



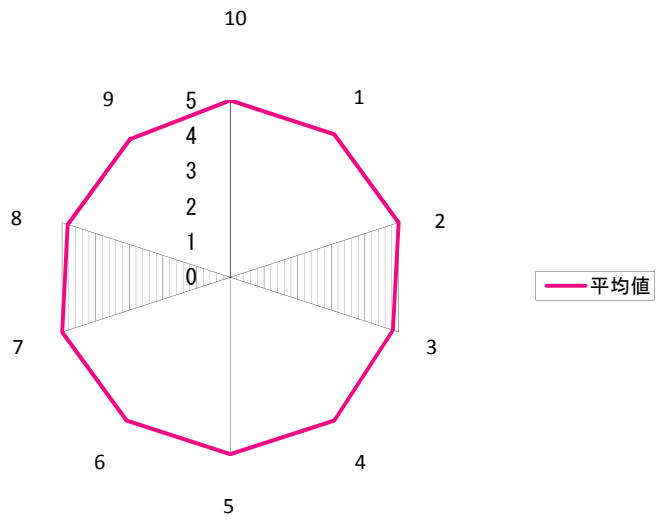
教員のコメント

本授業では，本学で学ぶ留学生たちに，「グループで互いに協力し合える能力」，「データの収集やまとめを適切に行える能力」，「自分たちの考えを支持する証拠を探し出せる能力」，「自分たちの考えを日本語で適切に表現できる能力」等を身につけさせることを目的として，演習発表形式のスタイルを採った。受講者数は2名（＋聴講10名）であり，「この授業では，日本語の勉強ができるだけではなく，スライドの作り方や発表の仕方も勉強できました。」，「留学生の授業なので，先生が何を説明しているのか，すごく丁寧に分かりやすく説明していただきました。」（原文ママ），「毎回の提出物は先生が丁寧に修正してくださいました。この授業を通して自分の日本語能力を伸ばしたと思います。」（原文ママ）など，実用面やわかりやすさを高く評価する声が多く見られた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた（N1レベル～N3レベル）ため，全員のニーズに応えることは難しかったのであるが，できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう，今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名　日本古典語演習
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



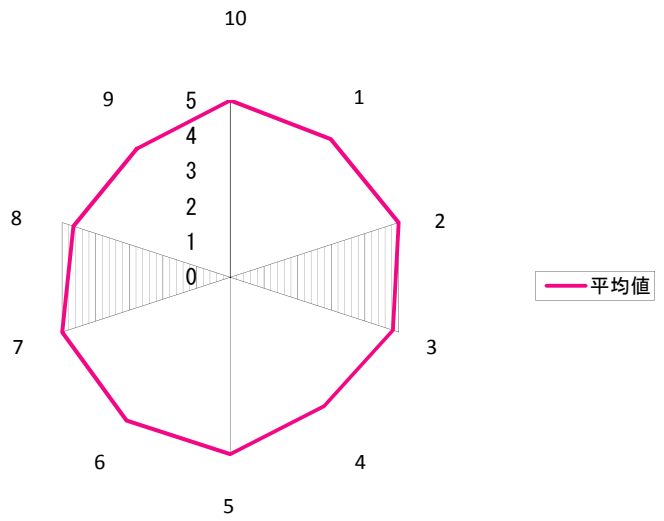
教員のコメント

正式な受講者数は2名と少なかったが、昨年度から続いて聴講する4名が加わって、前期に引き続いて「祖谷東西記深山草」を読解し、全巻を読み通すことができた。
良かった点として、「全員で、一つの作品を丁寧に読み解いていくことで、確実にくずし字を読む力が付きました」「祖谷地方の言い伝えや、当時の表現などを知ることができた」「古典の知識が身につき、関心が高まった」というコメントがあった。受講生の取り組みとしては、「予習、下調べを頑張り、授業内容が理解できるように努めました」といった予習に関するコメントとともに「授業の中で取り扱った文献の舞台である祖谷山へ行き、文献中に登場する土地を実地調査した。そして、それを授業中に発表した」というコメントもあった。
取り上げた文献が、徳島県の祖谷地方の地理や文化、そして平家の落人伝承とも密接な内容であったことも、興味関心を広げるきっかけになったのであろう。

結果報告書

授業科目名　現代日本語演習
評価実施日　平成26年12月21日
担当教員名　茂木　俊伸　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



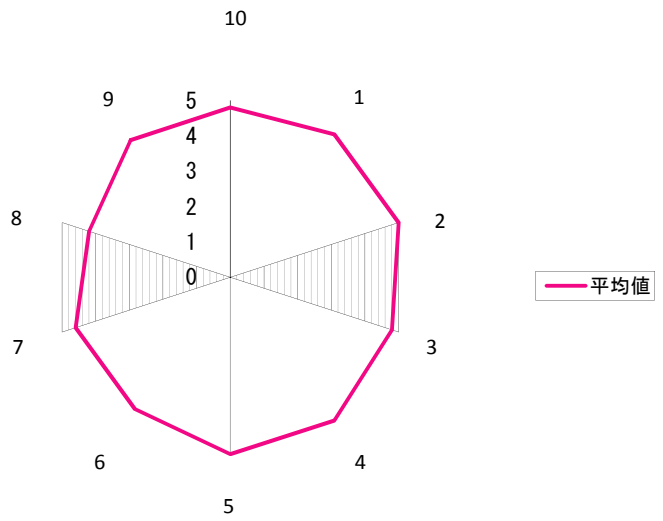
教員のコメント

本演習では，現代日本語の語彙・意味を題材として，教材分析やことばの研究で必要となる視点や技術を使った言語現象の分析を行った。受講者数は 6 名（＋聴講 1 名）であった。
選択式の質問項目では，授業の総合評価（項目(10)）の平均値が 5.0，全項目の平均値は 4.83 であり，総じて満足度は高かったと判断できる。
記述式の質問項目では，授業の内容・方法に関わる改善点（項目[3]）の指摘はなかった。
集中講義期間中に毎日課題を出したが，「どれも考えたり答えを相談したり，とたのしいものでした」（項目[2]：よかった点），「簡単ではなく，でもとっても難しいものではなく，真剣に必死に考えれば分かりそうな課題」（項目[4]：その他感想等）のように，質量ともに適切な範囲だったと考えられる。
実践力の育成という点でも，「多くのことについて調べた結果，知識が増え，自分の課題にも気付けた」，「教材分析にも大変役に立つと思う」（項目[4]）という前向きなコメントが得られている。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅰ
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　黒田　俊太郎　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



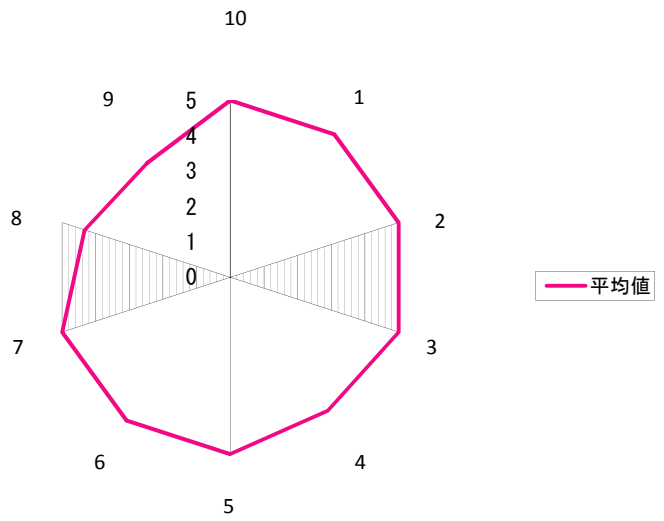
教員のコメント

総合評価は高いものであり，概ね順調であると判断できる。質問(8)に3点をつけた学生が2名いたが，これは演習授業で黒板や視聴覚機器を使用をしなかったことが原因だろう。質問項目(6)にも3点をつけた学生が1名いた。来年度は本年度よりも詳細に進め方を解説し，周知徹底させることとした。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅱ
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　小島　明子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



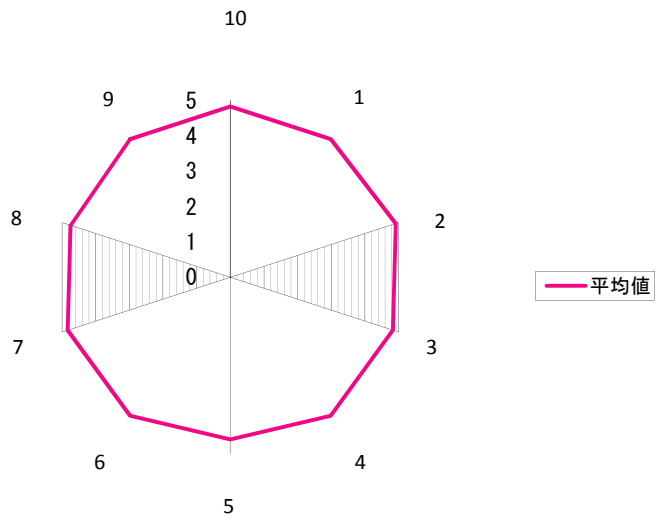
教員のコメント

受講生が3名の演習であり、この科目への興味・関心が高い学生が受講した上に、個別の能力に添って指導をすることができた。そのため、全体としては学生の満足度も高めとなったと思われる。ただし、これが大人数の受講者となった場合は同じように授業を行うことができないのは十分予測され、そうした際の対応が課題であろうと考える。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学演習
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	2		1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	3					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2					4.8



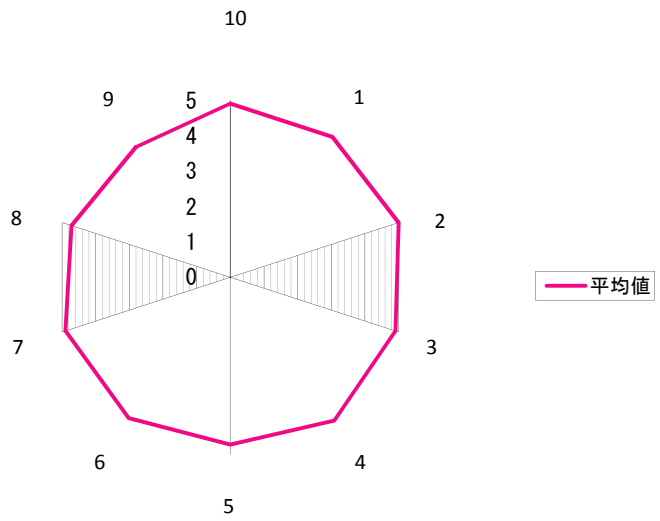
教員のコメント

学生もよく授業を理解しよかったと思います。

結果報告書

授業科目名　日本語文法演習
評価実施日　平成27年2月13日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	3					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	1					4.9



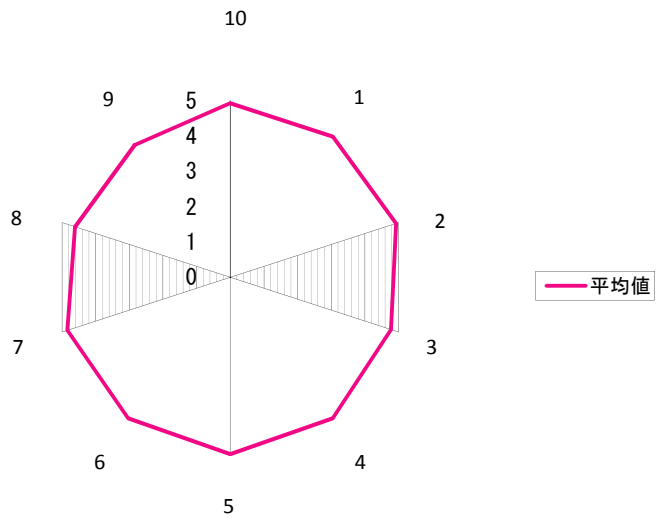
教員のコメント

本授業では，「指示詞(コ・ソ・ア)」について，古典的な論文から最近の論文までを幅広く検討することで，従来何が問題とされてきて，現在何が問題として残されているのかを理解することを目指した。また，そのような研究の積み重ねによって得られた知見を日本語教育の現場でどのように活かすべきかを議論した。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「すごく考えさせられた講義だった。自分たちで発表する形式だったので，深い学びに繋がったと思う。」，「分からない部分を気兼ねなく言える雰囲気が授業全体を通じて作られていた。」，「発表の際に，何度も添削してもらえたので，発表する論文に関する知識が深まり，また資料の作成の方法も学ぶことができた。」など，授業内容や授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「一つのテーマを深く取り扱いすぎました。もう二つぐらいのテーマを扱っても良かったかもしれません。」のように，テーマを「指示詞(コ・ソ・ア)」に特化することに対して改善(再考)を求める声も出ていたため，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　日本語語彙論
評価実施日　平成27年2月6日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	13						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	5					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	1					4.9



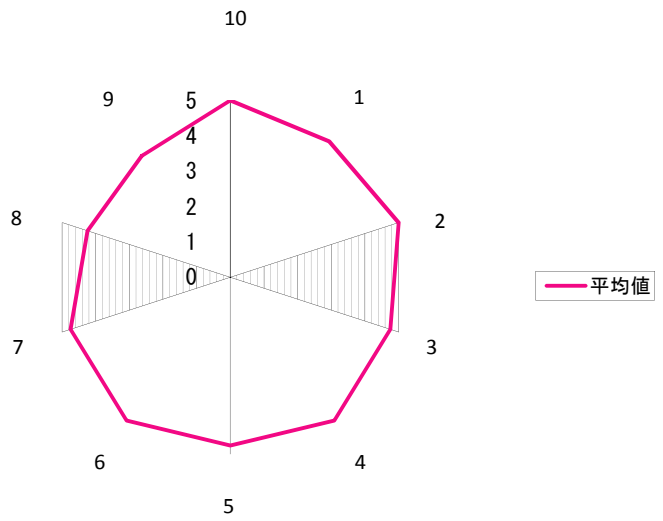
教員のコメント

本授業では，語彙の計量や語の意味など，語彙に関する様々なトピックについて理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「授業の内容が分かりやすかった。内容だけなく，プレゼンまで，しっかりと学べた。」，「とても楽しく，学びの多い授業でした。言語についてを専門にしない自分でも興味を絶やさず聞くことができました。」，「授業の進め方や評価の仕方等に先生のたくさんの工夫が見られたのとともに，学生のことを考えてくださる面も多く見ることができた。」など，授業内容や授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，この授業の改善点として「ツールの具体的使用法の説明」を挙げる声も出ていたため，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　国語科教育学演習
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　村井　万里子　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	3					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



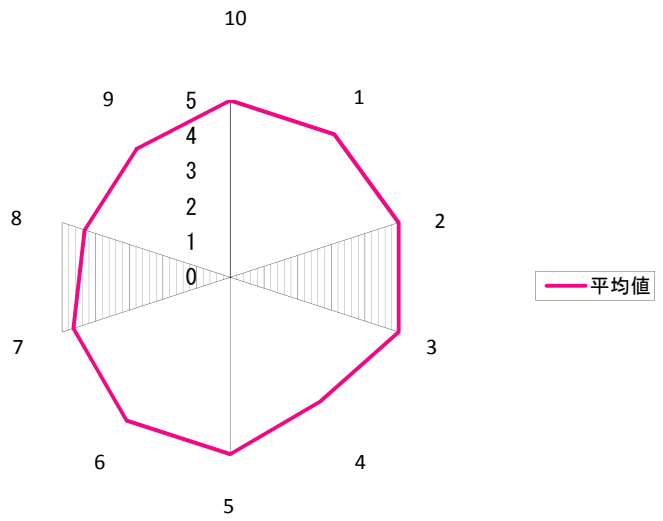
教員のコメント

前期「国語科教育学研究」を受けて、後期本授業では、国語科教育の基本的考え方がまとめられた「講座」本を演習の対象とした。
用いた著書は、倉澤栄吉・野地潤家　監修『朝倉国語教育講座』全6巻2005朝倉書店　である。この6冊のうち、受講者各人が自らの問題意識に
そって、1冊を選択し、3回に分けて演習を行った。
国語科の内容に関する基本的文献であって、難しすぎず、易しすぎず、併せて自らの関心から本を選択できたことが、比較的良い学習後感を
もたらしたものと推察される。

結果報告書

授業科目名　国語科授業演習
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　幾田　伸司　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5		1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4		2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



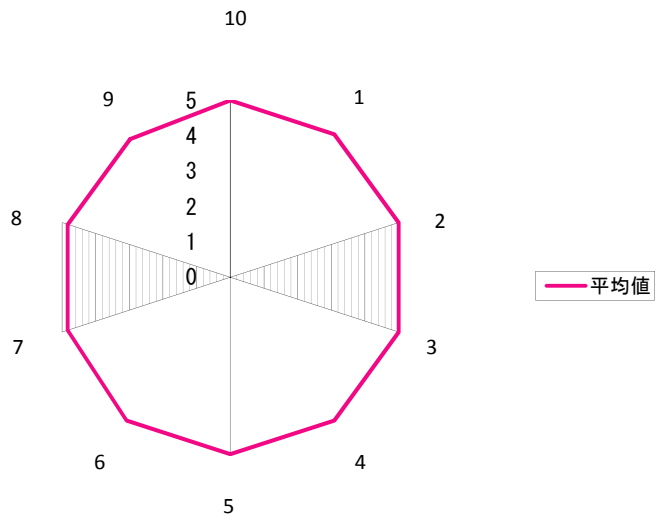
教員のコメント

全体的に高い評価をしていただきました。受講者が少人数でしたし、半数が現職教員だったこともあり、活発に討議できたように感じていました。コメント欄でも積極的に取り組めたことについての肯定的な記述が見られたように、受講者それぞれが主体的・積極的に取り組んだことが、満足度の高さにつながったのだと思います。本年も例年に倣って、理論－実践の二回に分けて演習を担当してもらいましたが、この形式もやりやすかったようです。ただし、演習で進めていますので、各人が取り上げるテーマへの関心や理解度によっては、討議への参加が難しい場合もあると思います。そのような場合の授業者による討議の進め方など、今後も研鑽していこうと考えています。

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発演習
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



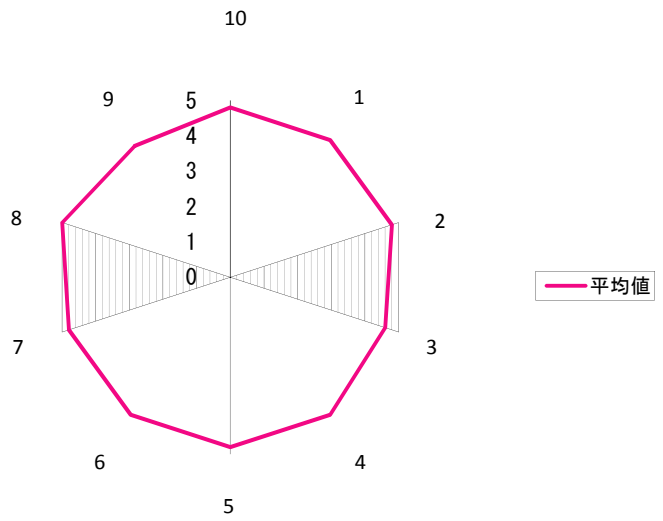
教員のコメント

総合評価は、本年度も5の評価であった。欠席者もいて回答者が6名のみであっが、受講生は例年より多く9名であった。
受講生の「この授業でよかったと思われる点」のコメントとして、「修士論文の作成に向けての助言をいただくことができた点、私の興味がある内容をすることができた点」、「学生や先生で、発表内容について論議が広がり、わかりやすかった。」、「受講生どうしで、お互いに自分の研究について発表し、ディスカッションできたこと」などの記述があった。受講生が9名のみであったので、ゼミ形式で授業を展開できたメリットだと考えられる。受講生各自が、国語科教材開発について研究テーマを設定し、発表を行うためには、受講生が多すぎてはいけない。しかし、受講生が少なすぎても議論が広がらない。今後も、適切な受講生の確保に努めたい。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）
評価実施日　平成27年2月5日
担当教員名　杉浦　裕子　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



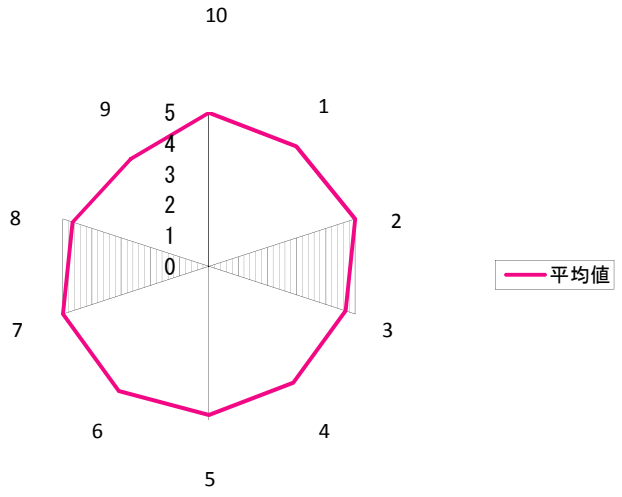
教員のコメント

今回はTaking Sidesという現代劇を読みながら「芸術と戦争」というテーマについて受講生とディスカッションした。 受講生が全員非常に熱心で、また教養レベルも高かったため、受講生よるプレゼンテーションも授業中のディスカッションも非常に中身の濃いものになったことが、アンケートの満足度に表れていると思う。私の方が受講生に感謝したいくらいである。

結果報告書

授業科目名　学習英文法演習Ⅰ
評価実施日　平成27年2月4日
担当教員名　眞野　美穂　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



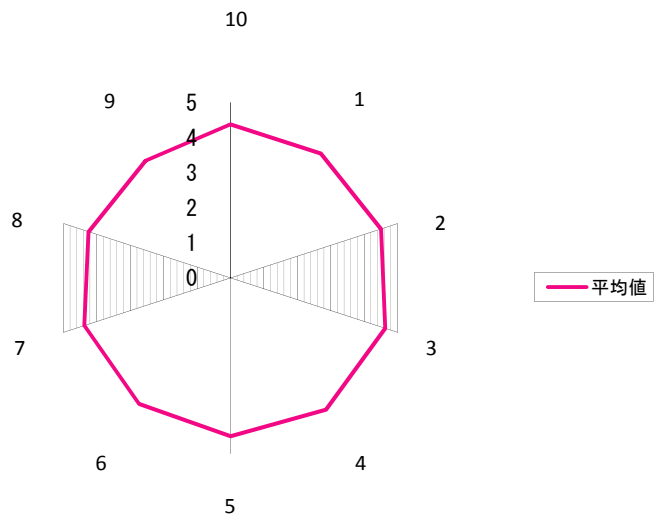
教員のコメント

小人数で行った授業であったこともあり、皆で議論を行い、発表形式で授業を進めたことが、全体的に高評価を得られたことにつながっていると感じている。文法について、深く考えることができたなどのコメントもあり、今後もテーマを変えつつ、この形式で授業を進めていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　アカデミック・ライティング Ⅰ
評価実施日　平成27年1月28日
担当教員名　吉川　エリザベス　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	4					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1		1		1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	2				4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	3	1				4.4



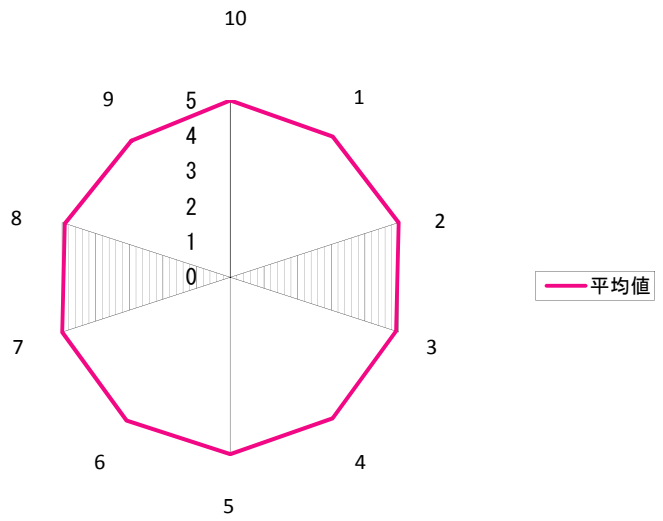
教員のコメント

Over all the remarks for this calss seem very postiive. It seems that I need to improve students' confidence to work proactively on their class projects. While I made much use of audiovisual equipment it seems that students might also want that supplimented with the use of the blackboard. I will endevour to do that in the future. I will take students' comments and attempt to incorpartate them into the class next term.

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅰ
評価実施日　平成27年2月6日
担当教員名　伊東　治己　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	13						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	13						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13						5.0



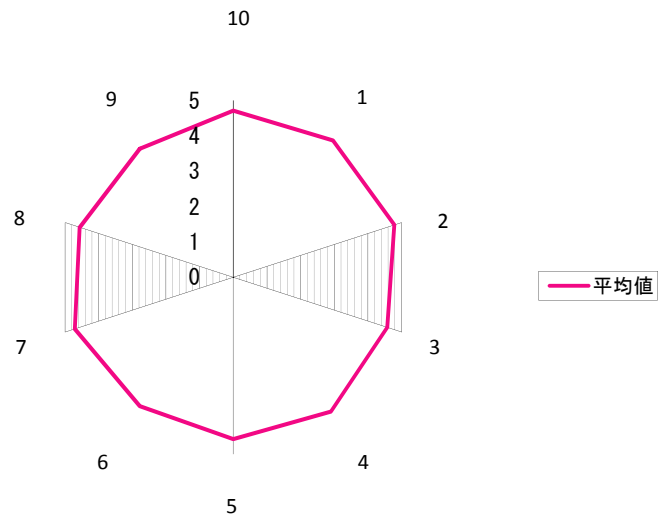
教員のコメント

本授業の目的は，第二言語習得研究の最新の動向について，基本的な文献を輪読しながら，理解を深めるとともに日本の学校英語教育の在り方について，討論を交えながら，考察して行くことであった。受講生全員からすべての項目に関して4．8から5．0の評価を得ることができ、かつ総合評価では受講生全員から5の評価を得ることができた。受講者が比較的少人数であったため、評価において必ずしも率直な評価が得られたかどうか不明であるが、その点を差し引いても、本授業の目的は達成できたものと判断できる。具体的な感想としては，「毎時間課題を持って取り組めました。」「英語教育に非常に役立つ内容だった。」「具体的な指導法を学ぶことができた。」「本当に良い授業だった。この授業がこれからの私の指導方法の核になる。」「現代の外国語教育で必要な知見、スキルを学ぶことができた。英語教育の歴史もわかりやすく勉強できた。」「論文を読み進めながら、それと連動した説明（パワーポイント）がわかりやすかった。」「論文の輪読で理論学習と論文の読み方が学習でき、また実践的な教授法を学ぶことができ、大変勉強になった。」「いろいろな学習方法を勉強できてとても良かったです。有意義な事案が過ごせて本当に本当に良かったです。」という好意的な感想が寄せられた。優れた理論ほど実践的なものはないというのが持論であり、勤務先が変わっても実践につながる理論と理論に支えられた実践の連係を模索していきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅱ
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13			1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3		1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	1		1		1	4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	3		1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	3			1		4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	1		1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	3		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	1		1			4.7



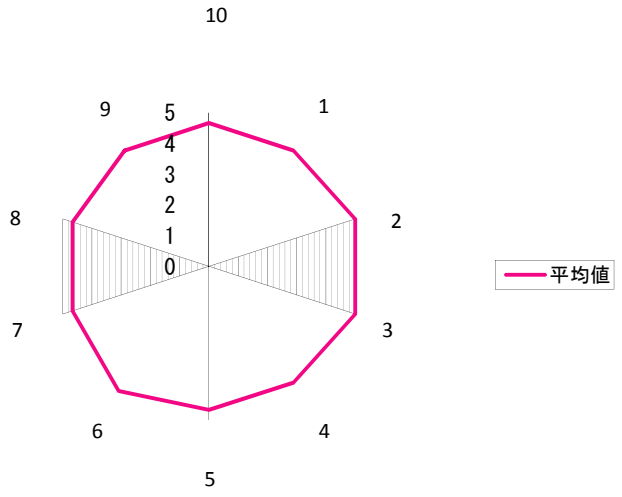
教員のコメント

各項目の平均値が4.5以上，また項目(10)の総合評価の数値が4.7であることをふまえると，高評価を得たと結論づけることができる。ただし，少数ではあるが評定1や2も見られる。本学大学院ではキャリヤの異なるさまざまな学生が学び，本授業を履修する学生のニーズや興味・関心も年々多様化しているように感じる。このような状況に対処すべく，これまでも授業の方法や内容の改善を徐々に進めてきた。しかし，授業が大学院における専門教育の一環として行われていることを考慮すれば，学生のニーズや興味・関心への対応も慎重に行うべきであると考える(専門領域の奥深さやそれを学ぶことの面白さを伝えるのは教師の役目であるとは思うが)。つまり，授業で扱う内容(専門性)の質は維持しなければならない。授業の方法や内容の改善については，特に本学大学院の目的やカリキュラム・ポリシーと同時に担当授業の本来の目的・主旨をふまえて検討する必要があると考える。

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅲ
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　畑江　美佳　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



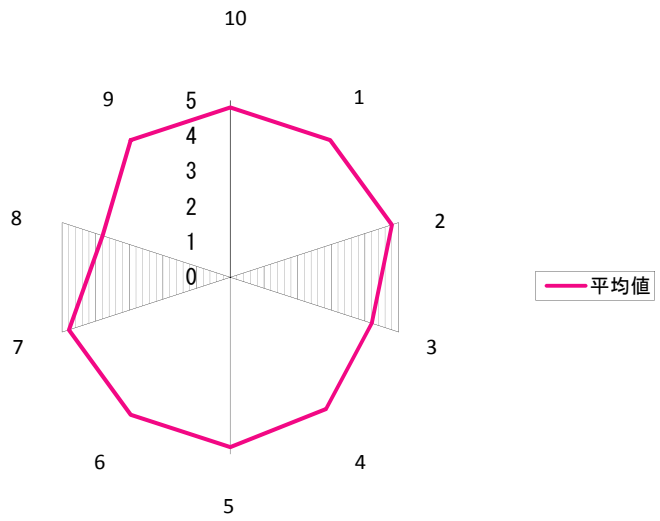
教員のコメント

少人数だったこともあり，一人一人と対話がきちんとできたので，良かったと思う。学生には常に主体的に授業に参加するように促しているので，いつも疑問を持ってその解決に向かうような授業をするように心がけた。総じて，充実した授業を提供することができたと思う。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅰ
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　大石　雅章　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4					4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		4	1				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



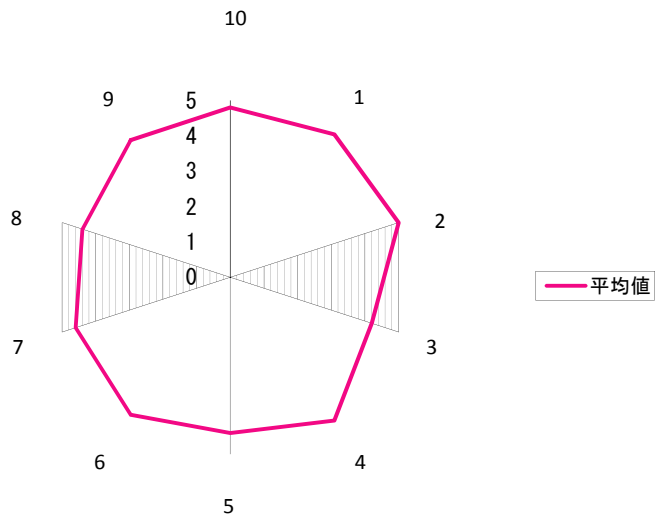
教員のコメント

授業の総合的評価が4．8であり、ほぼ受講生の期待に応える授業ができたと考えられる。なお第8項目の板書であるが、演習の議論上においての用語や学説を黒板に記したため、丁寧に表記する配慮が不足していたと思われる。今後はその点もを心がけ、より一層授業の向上をはかる。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅱ
評価実施日　平成27年2月5日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4					4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



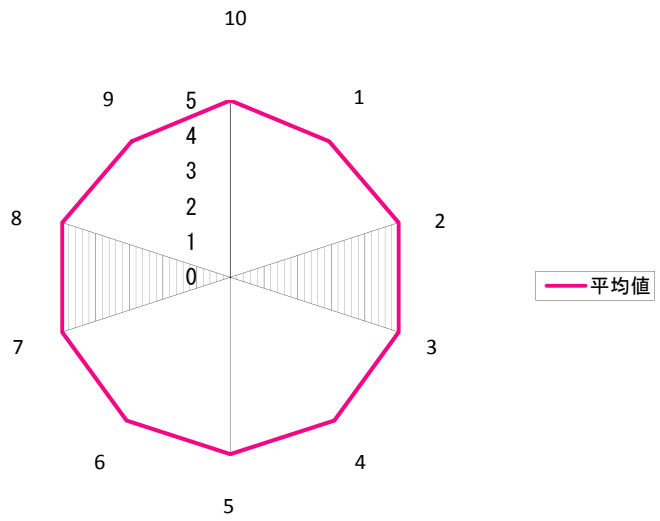
教員のコメント

今年度の歴史学演習Ⅱは、近世身分制社会の理解をもとに、「阿淡孝子伝」を読み解くという内容であった。各事例の中には、史料になかなか現れにくい下層民衆や障害を持つ民衆、あるいは四国遍路の具体的習俗などを、具体的に読み取ることができる。こうした歴史上の民衆の「小さな事実」をひとつひとつくみ取りながら、歴史像を再構成していく力量をつけようというのが、授業の目的であった。受講生は、かなり予習が必要であるにもかかわらず、毎回事前学習をしっかりすることで、演習の場で調べてきた成果をよく表現することができていた。こうしたことから、総合評価も4.8と比較的高い評点となったものと考えられる。なお、教師の実践力育成の欄(3)がやや低いが、実践力の捉え方の問題であり、上記の力量をつけることは、実践力育成に貢献しているものと確信している。

結果報告書

授業科目名　法学・政治学演習
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　麻生　多聞　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



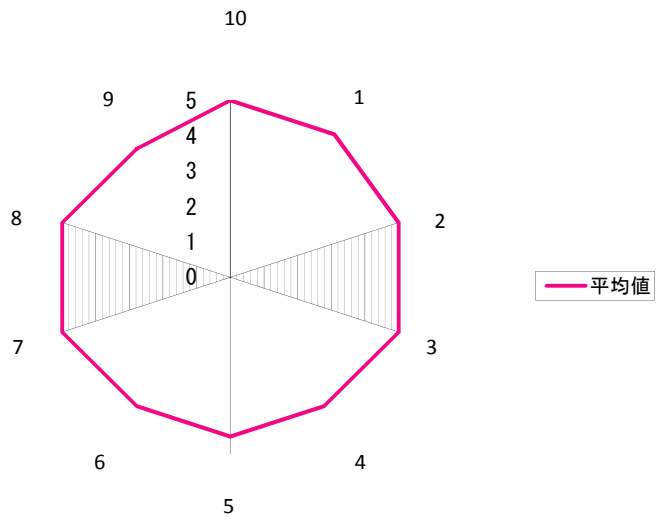
教員のコメント

今期は、筒井清忠『昭和戦前期の政党政治　二大政党制はなぜ挫折したのか』(ちくま書店、2012)を講読した。男子普通選挙法とともに訪れた本格的政党政治の時代がわずか8年で終焉を迎え、軍部が台頭する経緯を、歴史社会学的要因から追究する内容であり、現代日本の劇場型政治と二大政党制混迷の原型を昭和戦前期に探るという内容である。高度な学術的内容でありながら、受講生の全員が主体的に演習に取り組み、ネイティブな大衆の広範な感情の集積と、それの政治への動員という手法がかつても現在も不変であることを学ぶことができた。担当教員としても大変手ごたえの感じられる時間であり、受講生の皆さんと勉強できたことに心から感謝申し上げたい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



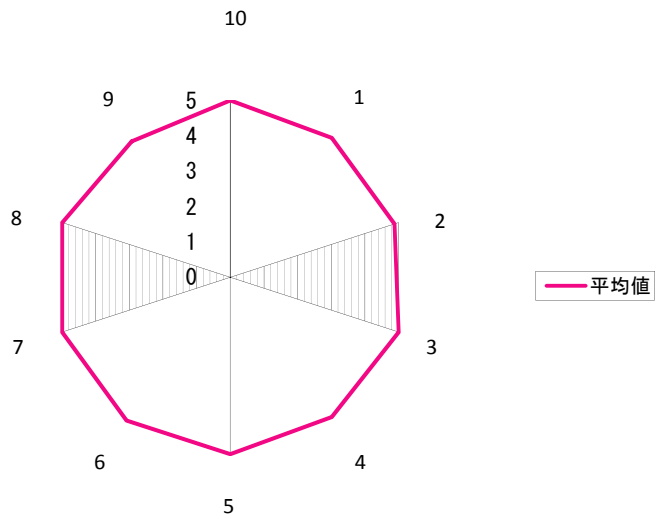
教員のコメント

本講義は、複数の歴史授業実践を分析・評価し、実践をつくり出す理論を類型化して、それぞれの授業の特質と限界を説明することを通して、社会科授業研究能力を育成することを目指した。授業の方法は、教員が講義したによる授業研究方法論に関する知見を踏まえて、学生が分担した歴史授業研究の事例を分析し論評を加えて発表するとともに、相互の討議をすることであった。演習科目であることもあって受講生は4名と少なかったが、総合評価は5．0であり、授業の内容・方法及び受講生自身の授業への取組を含めいずれも4．5以上の高い評価を得た。学修課題への対応により受講生に過度の負荷がかからないことに留意しながらも、基本的には理論の講義と学生による調査・発表・討議のスタイルを継続していきたい。

結果報告書

授業科目名　幾何学研究
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



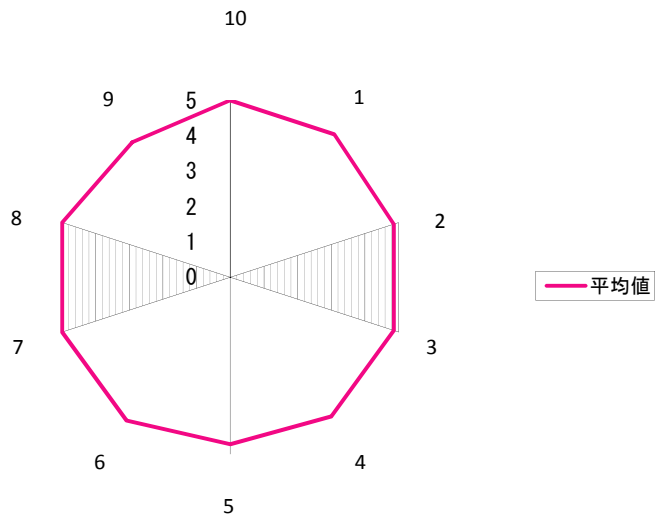
教員のコメント

各項目の評価平均値がすべて4．8以上で総合評価が5．0であり，高い評価が与えられていると考える。自由記述の「よかった点」欄には以下の回答があった。「普段考えることがないものを考えることができて楽しかった」，「理論的に示したことが実験ですぐに分かったのでよかった」。また，質問9の理由として，「教師になったとき生徒に教えることができる内容があったため」と「興味をひきつけるような授業だったため」が挙げられていた。

結果報告書

授業科目名　幾何学演習
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6		1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



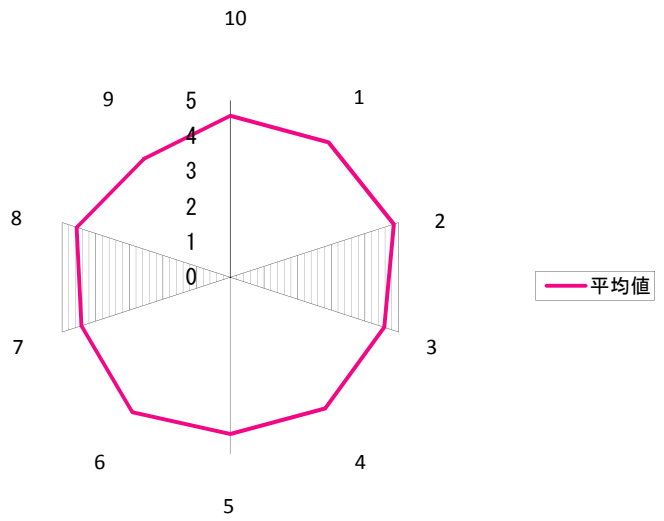
教員のコメント

各項目の評価平均値が4．7以上で総合評価が5．0であり，高い評価を得ていると考える。自由記述の「よかった点」欄には「いろいろ作品がつくれて楽しかった」という回答があった。その他の自由記述は無かった。

結果報告書

授業科目名　解析学研究
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1		1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	2				4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1	1				4.6



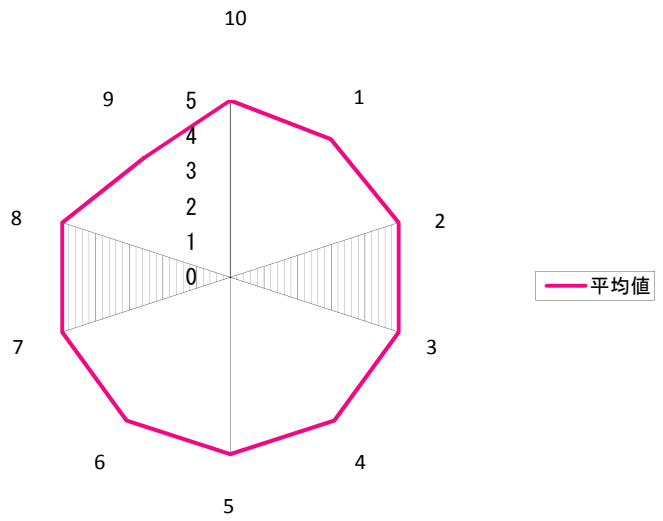
教員のコメント

授業を進める上で，出来るだけ学校数学との関連を明らかにし，専門的な数学を学ぶ意義も感じられるよう留意した。学生が主体的に授業に参加できるよう，自ら考えたことを発表し，それについて議論も出来る時間も設け，授業を進めた。評価項目の得点はいずれも4点台であり，その意図が十分に伝わったように判断できる。内容においては，出来るだけ学生の興味を引き出すことを考え，一つは学校現場で取り上げられている内容との関わりを詳しく述べること，二つ目は，単に抽象的理論の組み立てで終わるのではなく，出来るだけ自然現象と結びつけて解説を行うことに努めた。その結果，学生の反応も十分であったように感じられる。また，記述欄においては，「専門的な知見が得られた。自然現象との関連が感じられた。」「日常的な内容を取り上げられていて興味深かった。」とある。ただ，「フィールド研究の講義のため，とても興味深い内容だったのできちんと受けることができませんでした。」との記述もあり，他教員と連携して授業時間の調整を行う必要があると感じられた。

結果報告書

授業科目名　解析学演習
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



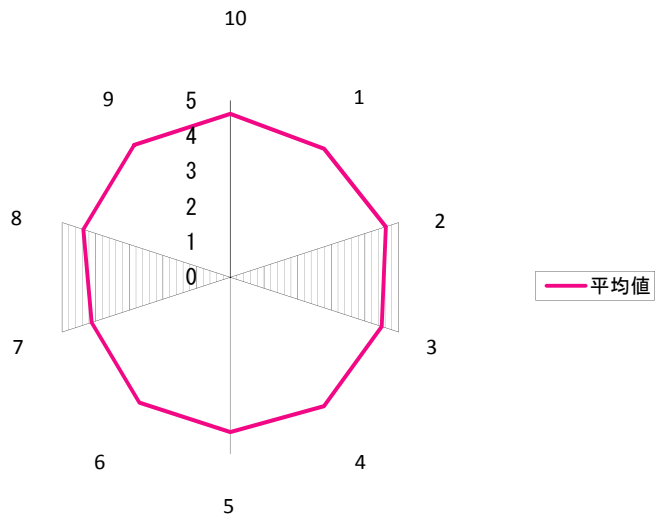
教員のコメント

シラバスに従って，学生の発表を主体とした学生参加型の授業を展開した。また，その内容においては学校数学における内容を大学数学から見直し，どのように解釈し，教材に発展させることが出来るかに注目して進めた。その際，単に数学の学問内容だけにとどまらず，日常目につく現象のうらに潜んでいる数学的理論を取り上げることに努めた。その結果，アンケート項目のうち，2項目以外で評価5であり，その2項目とも，それぞれ4．8，4．2と非常に高い結果が出ている。特に，総合評価においては全員が5点の評価を出し，十分な感触をもって授業を受けられたと評価できる。記述欄では，「興味がわく内容であったので，自分で学習することにも取り組めた。」「日常的な内容で興味深かった。数学の専門性が磨かれた。」との記述があり，主体的に取り組もうとする意欲も感じられ，当初もくろんでいた通りの授業展開を行うことが出来たと評価できる。ただ，学生からは実践フィールド研究にかなりの時間を割かざるを得なかったため，こちらの内容に集中することが出来なかった旨の記述があった。学生の勉強時間のバランスを考え，全体のカリキュラムの再構成を考える必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名　数学科教育学演習
評価実施日　平成27年2月20日
担当教員名　秋田　美代　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	4					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	3	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	3				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	3	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	3					4.6



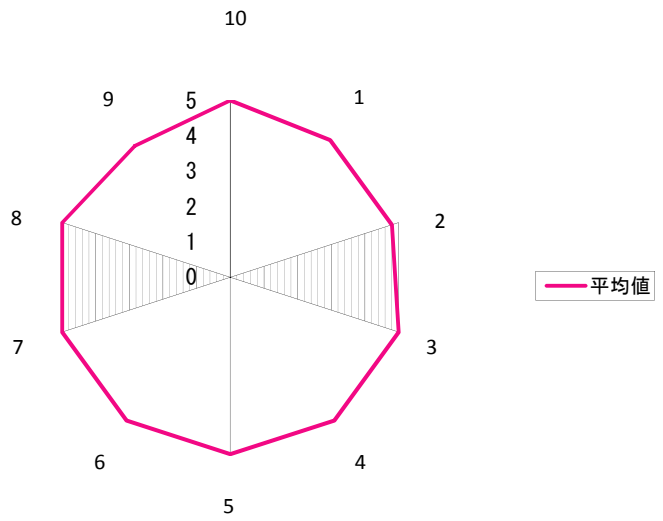
教員のコメント

この授業科目の主な目標は，「数学科教育学研究」の授業内容を基盤として，数学科における実践的課題を探究すること，及び数学教育学の研究内容・研究方法についての理解を深めることであった。総合評価の平均値は4.6，評価の平均値が高かった質問項目は，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」等であり，評価の平均値が低かった質問項目は，「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」であった。アンケートに記述された「教師として授業を行ううえでの教養が身についた」，「数学の授業についてあらゆる視点から考えることができた」，「最後の受講生による発表では，全員それぞれの考えや方法を発表していて勉強になった。自分の発表する内容も普段考えないことだったので改めて勉強になった」という意見や(7)以外の質問項目では4・5を選択した履修者が8割を超えていたこと等から，授業の内容は概ね履修者に適した内容であったと考えられた。授業の改善点として，「学生主体の場面が多かったので，発表の前に詳しい内容の確認があるとよかった」「たまに説明が分からない」との記述があったので，受講生の理解を促進するためのより詳しい説明を行うことを考えている。

結果報告書

授業科目名　数学科授業研究
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　坂井　武司　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



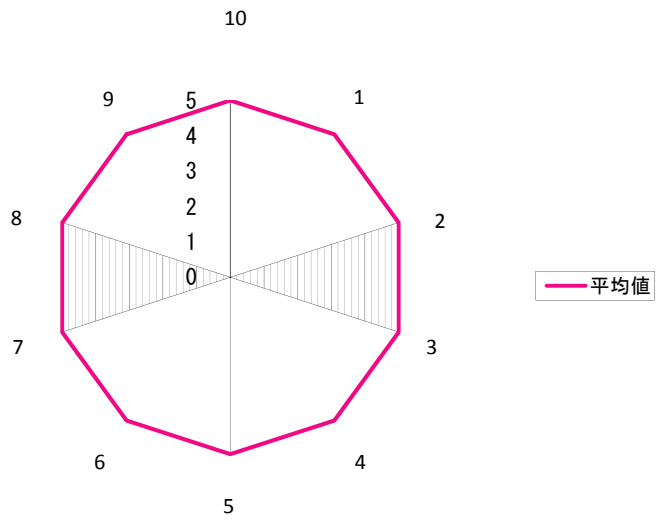
教員のコメント

アクションリサーチによる実証的研究として，実際に調査問題の開発を行ったり，調査結果の分析を行ったりするとともに，その分析に基づいた学習指導案を作成し模擬授業を行ったことが，教師の実践力の育成につながる内容であったという高い評価を得たと考えられる。また，脳科学の知見に基づいた授業展開や指導の手立てを工夫した学習指導案を作成し模擬授業を行ったことが，専門的知識を深めるのに役立つ内容であったという高い評価を得たと考えられる。アクティブラーニングを行うことにより，主体的に取り組むことができた院生が多かった。しかし，自己評価として，授業に主体的・積極的に取り組んだと言えない院生がいたことから，授業中の活動及び授業外での課題に対する活動に関して，個別の支援が必要であったと考えられる。

結果報告書

授業科目名　物理学特論Ⅲ
評価実施日　平成27年2月24日
担当教員名　粟田　高明　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



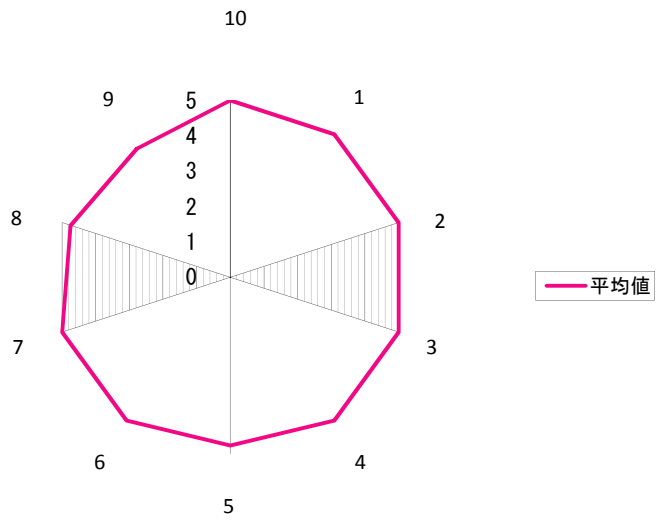
教員のコメント

アンケート結果から，この授業に関する感想は好評であった。約30年ぶりに放射線の内容が中学校理科での学習に加わったこともあり，受講者の関心が高くなったと考えられる。放射線以外の物理的な内容について議論したり，簡単な観察・実験を加えたりして，座学だけでは理解が進まない事柄について工夫を行った。また授業担当者が放射線教育に関する文部科学省の事業に参画したこともあり，受講者に原子力発電所の研修に参加していただき，貴重な体験をしていただいた。

結果報告書

授業科目名　物理化学特論
評価実施日　平成27年2月20日
担当教員名　武田　清　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

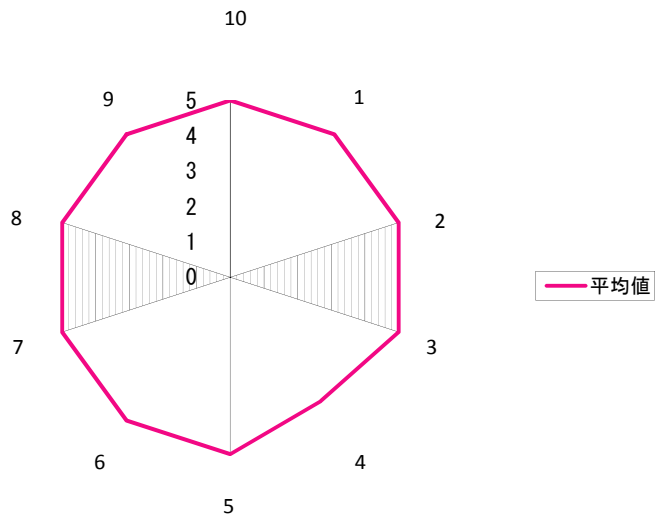
献身的にアンケートに協力してくれる大学院生には，頭が下がるが，このような少人数の授業アンケートの集計に統計的意義はないので，特にコメントは無い。自由記述欄に激励の言葉を書いてくれた大学院生には，お礼を述べる。一方で，改善すべき点を提案してくれたものはなかったので，殊更にコメントすべきことは無い。

以上の状況は多くの大学院授業でみられることではないだろうか。だとすれば，少なくともごく少人数でおこなわれる大学院授業に関しては，組織的なアンケートスタイルでの授業評価は，すでにその使命を終えている。アンケートの実施そのものを各教員個人の自由としていくのが効率的な大学運営というものではないか。

結果報告書

授業科目名　生物科学特論Ⅰ
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　米澤　義彦　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



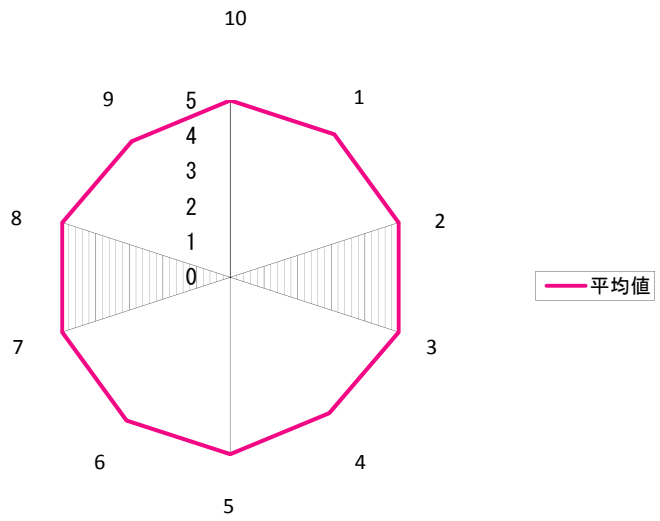
教員のコメント

受講者3名は，小・中学校の現職教員および高校教員として採用が決まっているストレート院生であった。3名とも非常に熱心で，授業に集中できたように思える。特に好評であったのが，時間外で行った「体細胞分裂の観察」の実験であった。この実験は，中学校教員の求めに応じて行ったものであるが，他の受講者も参加した。小学校教員は教員交流で中学校勤務を希望しているとのことで，「一度体験しないとできない実験である」と喜んでいた。高校教員として採用が内定している受講者は，高校・大学を通してこの実験を経験したことがないとのことで，現在の教員養成の「暗部」を見た思いである。なお，成績評価の基準が不明瞭という指摘は，成績判定の資料として提出させたレポート（授業案の作成）の体裁が理解されていなかったためと思われる。学部時代に教員免許を取得しているが，授業案の「書き方」等の指導を十分受けていなかったものと推測される。最近，理科コース以外の長期履修生が中学校理科の教員免許を取得するために理科の講義を聴講することが増えているが，大学院の講義は，「教員免許を取得していることを前提に行われる」ことをシラバスに明示する必要があるかもしれない。

結果報告書

授業科目名　地学実験法特論
評価実施日　平成27年2月4日
担当教員名　小澤　大成，村田　守，香西　武，足立　奈津子　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



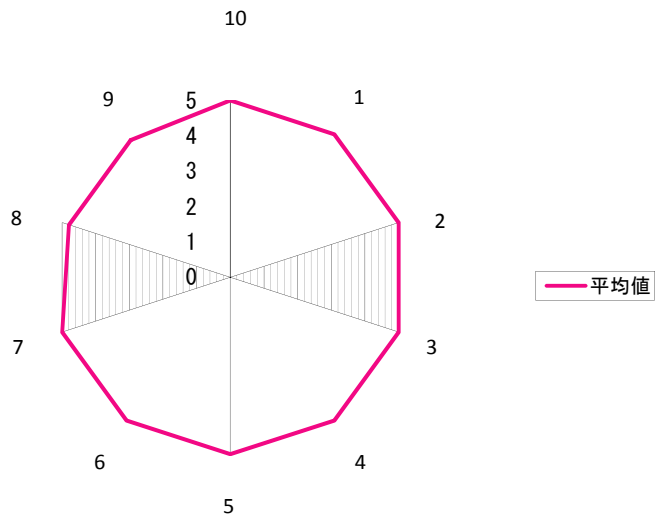
教員のコメント

本講義の目的は基礎的な地学分野の実験法の理解を通じて，地球物質科学の論理を学ぶことである。
受講者のコメントからも「時間をかけて鉱物を観察できた」「現場で使いたい鉱物のプレパラート作成ができた」という好意的な反応が多かった。

結果報告書

授業科目名　理科教材開発研究Ⅰ（物質とエネルギー）
評価実施日　平成26年12月5日
担当教員名　寺島　幸生　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4					1	5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



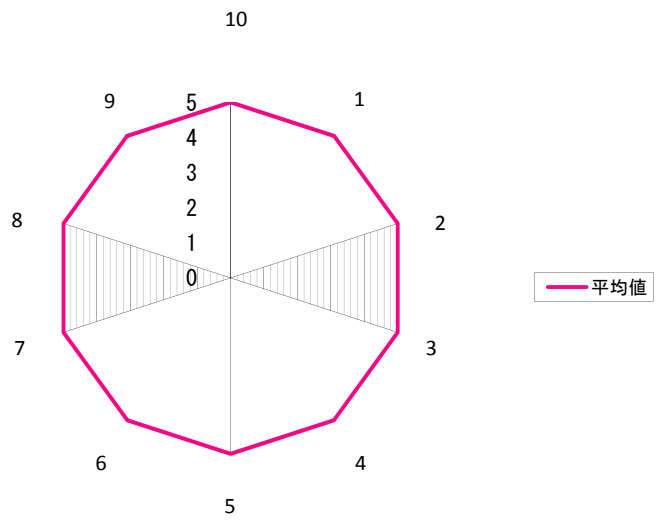
教員のコメント

アクティブラーニングを取り入れて授業を実践した結果，受講生の意欲，学修成果が向上したと感じる．その結果として，授業への高い満足度につながったと推察される．

結果報告書

授業科目名　音楽劇総合演習
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　真鍋　美恵　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



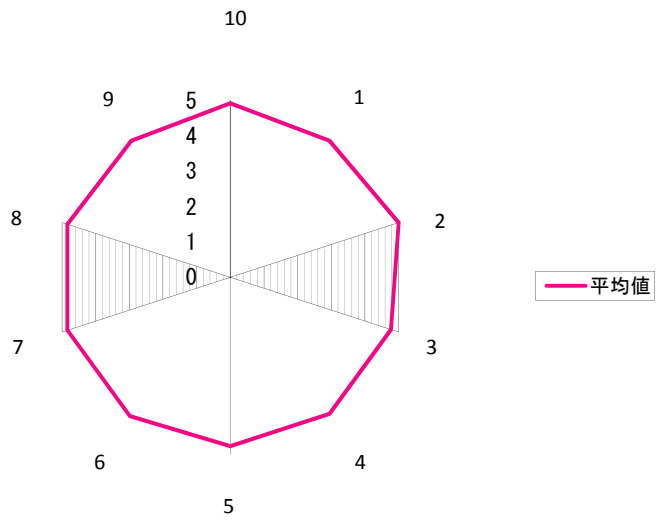
教員のコメント

本年度は受講学生数が2名と少なく、2名共に個々の専門分野を「声楽」に持つ学生だった為、それぞれの抱える課題を共に見つけ出し、そのことに時間を取って取り組むことが出来た。この授業の特性上、出来ることならば実施したかった複数名での演奏者（舞台出演者）同士の舞台上の関わり方（演技）についての実践が出来なかったことは残念に思うが，受講生の希望もふまえ、音楽劇特にオペラ作品の専門性のスキルアップを個々に確認できたことは良かった。そのことによって、受講者の満足度を満たした結果の授業評価と受け止めている。

結果報告書

授業科目名　歌唱表現演習
評価実施日　平成27年2月13日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	3					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	3					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	1					4.9



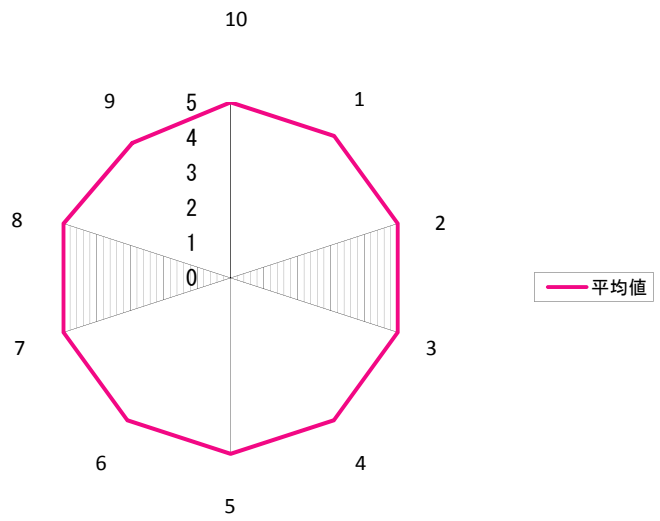
教員のコメント

この授業の受講生13人中，芸術系コース(音楽)の学生は5人だけで，他は教職大学院の学生も含む様々なコースの方々が受講されている。そのため，受講生個々の音楽的な実技能力にはかなり差があった。しかしこの授業では，夫々が自分のからだを無理なく使い，自然で無理のない歌い方ができるようになることが目的であり，決して音楽的な実力を評価する授業ではない。自分の実力に見合った楽曲を選び，自分なりに自然な歌い方ができればいいので，授業の評価については出席やレポートを主な評価の対象としている。専門的知識を深めるのに役立つ内容(5.0)であると同時に，教師の実践力の育成につながる内容(4.8)でもあったと評価されている。授業の進め方についても高い評価(4.8)を得られている。総合評価(4.9)からも，この授業が十分に教師の実践力育成に寄与するものであると考えられる。

結果報告書

授業科目名　ソルフェージュ研究
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



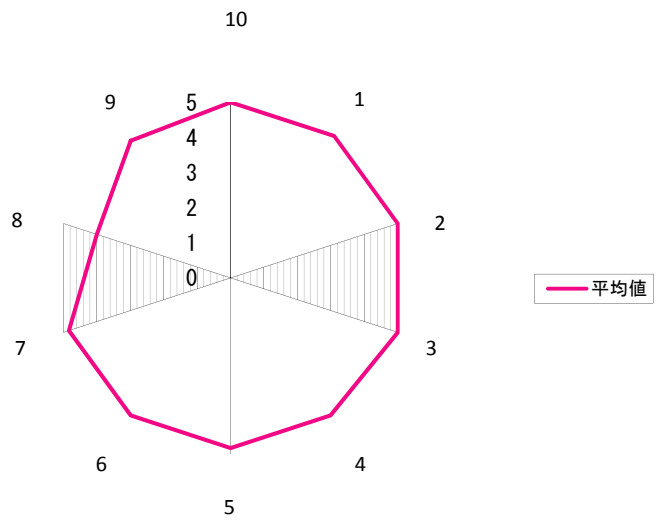
教員のコメント

この授業では，普段他の授業では取り上げられないことを自由に話題にし，我が国の伝統的な音楽から民族音楽まで様々なジャンルの音楽の映像を見せている。おそらく，そういったことが受講生の興味を引き，高い評価に繋がっていることと考える。

結果報告書

授業科目名　室内楽（器楽）
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　森　正，山根　秀憲　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



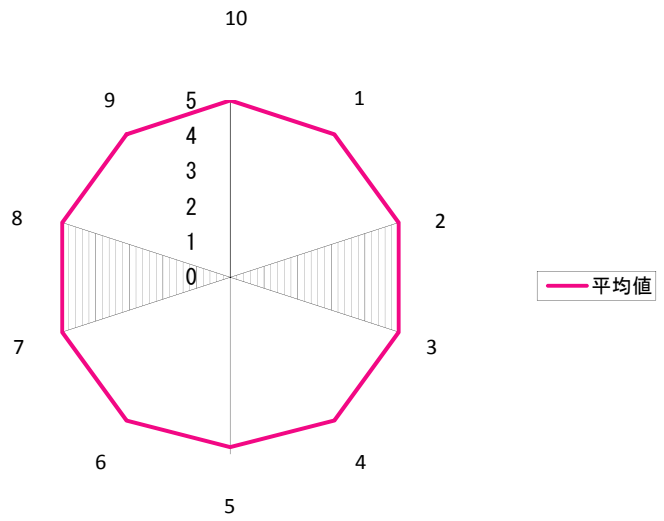
教員のコメント

例年とほぼ同様の内容の授業であった。受講学生の興味のある内容による授業であり，授業内容については教員養成系，あるいは音楽大学以外から進学してきて，このような音楽活動について全くの未経験者もいたが，学生の自主的な練習等の活動により授業が進められたことが，高く評価されたようである。 本来なら，このように自由に自らの表現意欲を発揮することが可能な授業なので，より一層積極的な活動を期待するものであるが，本学学生の全般的な特徴である「指示待ち」になってしまうことが多く，そこには多少歯がゆさも感じた。これからは課題の選択等においても，学生の自主性を発揮出来るような指導方法について研究する必要があると考える。

結果報告書

授業科目名　作曲法基礎演習
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　松岡　貴史　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



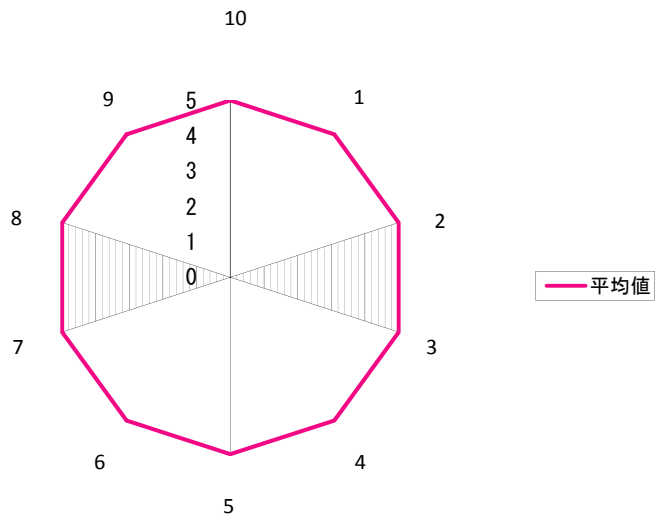
教員のコメント

総合評価5など，授業に対しては肯定的な評価で占められた。特に、全受講者が、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」と自己評価していることを嬉しく思う。自由記述には、「今まで、作曲というと難しいイメージがあったが、きまりを気にせず自由に作っていいと言っていただき、思うままに作れて良かった。それを、先生の助言で満足のいく曲にしていただけて、うれしかった。」「自由に作曲を行うなかで、理論や和声の流れを学ぶことができて、自身の演奏解釈にもつなげることができた。」「いろんな方法で作曲ができたので、よかった。とても楽しく、いろんなことが勉強できた。」「旋律の作り方が分かった。和声も少し分かるようになった。今後も努力して勉強したい。」「いろんな人のいろんな魅力ある曲を聴くことができ、とても楽しかった。」「他の方の作られた作品を聴き、大変勉強になり、大満足。また作曲したい」などの声があった。

結果報告書

授業科目名　音楽科授業研究
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　小山　英恵　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



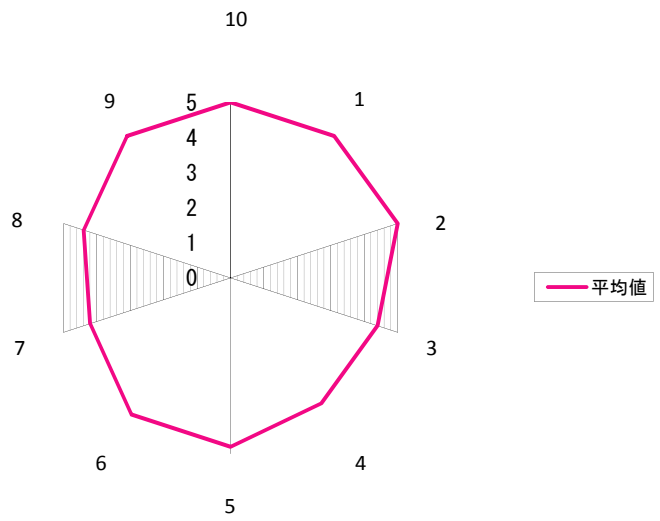
教員のコメント

本講義では、受講者の積極的な参加を期待している。今回の受講者たちは、皆それぞれ、音楽教育に対する自分の問題意識に照らし合わせながら本講義の内容を理解しようという姿勢をもって、積極的に講義にのぞんでいた。このような学生たちの態度によって、授業内のディスカッションなども実り多いものとなったと思う。一方、アンケートでは、講義室が寒かったという学生の声があった。今後は、適切な学習環境を保つことにも尽力したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　油画制作演習
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　鈴木　久人　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2	1				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



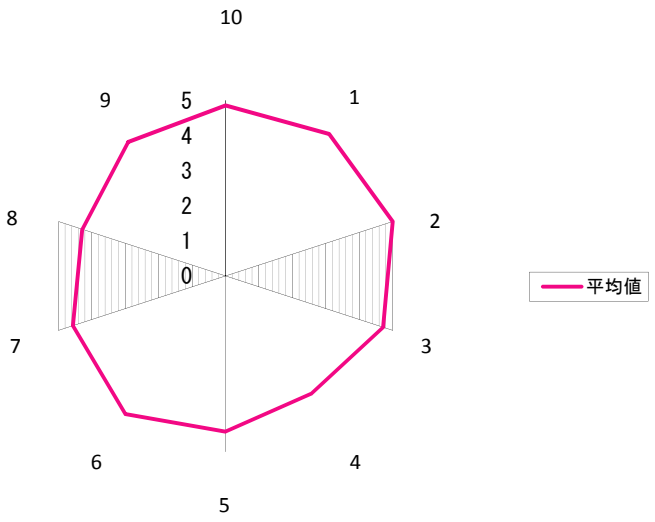
教員のコメント

総合評価が5.0という数値は好意的評価だと受け止めている。質問事項(7)が数値として低く目立つが、本授業は各自の絵画制作の深化を目的とした多様な演習を中心としているため，教科書等を使用しなかったためと思われる。自由記述の欄も好意的な意見が多く，特に新しい，経験したことのない画材に挑戦できたことを評価している。今後とも本授業で習得した内容が学校現場でどのように展開できるか，どのように実践できるかをディスカッションを通して確認したい。

結果報告書

授業科目名　版画制作演習
評価実施日　平成27年2月20日
担当教員名　平木　美鶴，武市　勝　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	4	1				4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	4					4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3					4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	5					4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



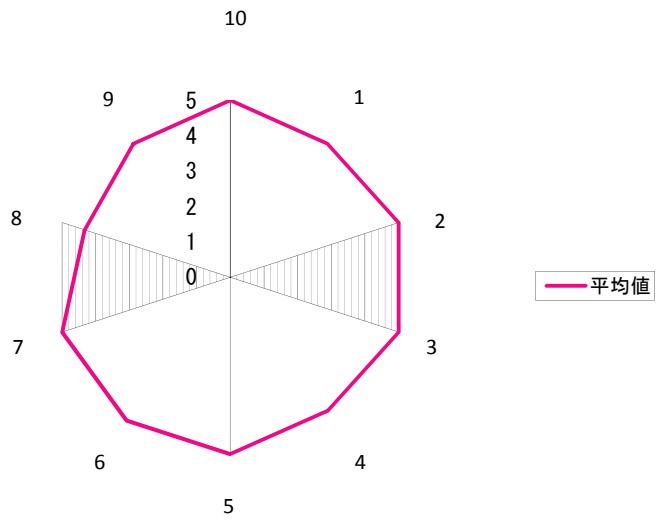
教員のコメント

学生達はとても熱心に取組んでくれた。こちらの無理な時間配分にも合わせて制作してくれたので助かった。版画への興味関心をもってもらえたのも良かった事の1つである。教えがいがあった。

結果報告書

授業科目名　彫刻制作研究
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　野崎　窮　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



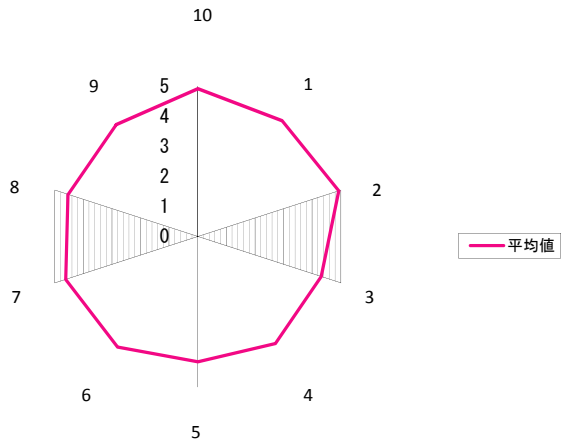
教員のコメント

この授業は実技が中心であり、着衣のモデルを使用した塑造(全身像)制作である。受講生は本コースの学生であるが，彫刻・デザイン・工芸と様々なゼミに属している。彼らが求めている彫刻における立体把握力を伸長させるべく、各自のその能力に応じて個別に指導した。結果として、各項目の平均値は「4」以上であり、特に10の項目で「5」という評価を得ている。導入において、様々な作家の作品解説行い、鑑賞に関わる授業の工夫を続けていきたい。

結果報告書

授業科目名　デザイン制作研究
評価実施日　平成27年2月10日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	3					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	2				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	4	2				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	6	1	1			4.2
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8	4	1				4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	9	3	1				4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	4	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	1					4.9



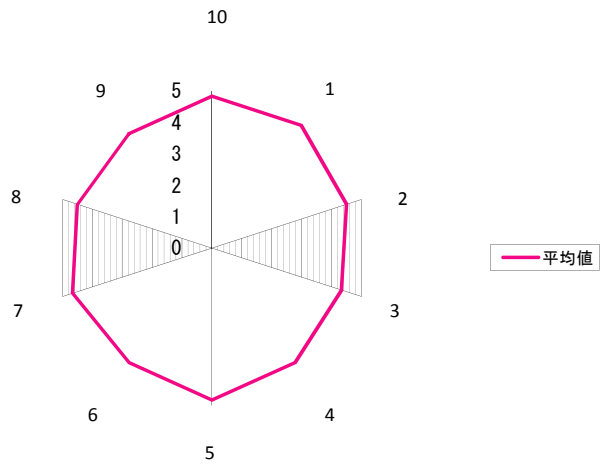
教員のコメント

この授業の受講者は13名で本年は全員がアンケートに回答してくれた。この授業は以下の様な流れで運営した。1時間目は全体の授業運営説明。2～6時間目はAdobe社のIllustratorの初歩的用法解説、トレーニングとしてこのソフトを使用した地図制作。7～8時間目はデジタル一眼レフの操作方法解説とスタジオでの照明操作解説および撮影演習。9時間目は撮影実習。10時間目は印刷原稿を作成する際のIllustrator、Photoshopの注意点解説。11～14時間目は大学院美術コースのパンフレットを想定したA3サイズ両面の印刷物原稿制作。15時間目が相互発表・作品講評。この授業の受講者は全くの初心者と既にある程度操作できる者が混在している。制作にあたっては、質問を申し出た者のところへ直接行き対応する形式であったが時として複数同時に手が挙がるケースもあり、その際は習熟している者にフォローをしてもらう形を取った。解説資料は一部紙媒体で渡しているが、大方は自分のウェブページに準備しておき、これを見せる形をとっている。さて、評価のグラフを見ると全般的に4以上の評価を受けており、基本的に満足感を得られていると判断できる。自由筆記の記述では良かった点としては「（実際に地図等を作る事で）パソコン及びソフトの使い方が判った」が7名、「カメラの使い方・撮影の技法が判った、知識が深まった。楽しかった」が3名、「教員としてだけでなく社会人として必要なスキルを学べた」「実践力を養うための授業だった」「ソフトでパンフレットを作れた」が各1名であった。一方改善点の要望は「写真の内容をもう少し長く」「授業時間を増やすか内容を絞る」「スクリーンが見えにくかった」「Adobeソフトが教室の右半分で使えなかった」が各1名だった。内容は昨年比でダイレクトメール制作の課題を減らしたが、それでも1件のみながら量が多いと指摘を受けた。また設備の不備についても指摘が出されているが、情報基盤センターと協調しながら解決へと努力して行きたい。今後も「より判りやすく」を目指しながら、大切な内容を削らないためにも解決出来る部分を探しながら少しずつ授業改善に臨みたい。

結果報告書

授業科目名　映像デザイン演習
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3					4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	1				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	1				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	3					4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



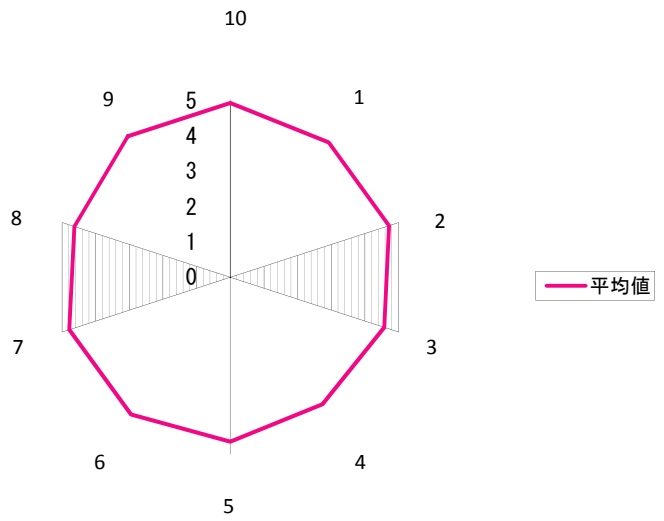
教員のコメント

本年度の受講者は6名。本授業は以下の様な流れで実施した。第1時間目は年間カリキュラムの説明を行ったあと映像資料の視聴と情報交換の手順説明を行う。2・3時間目はサイレント映画時代、4・5時間目はトーキー映画黎明期、6時間目は日本映画、7・8時間目は実験アニメーション、9時間目はCM（海外・日本）、10時間目は実験映像・ミュージックビデオ作品というテーマ流れで視聴経験と情報交換を積み重ねさせた。以降14時間目までは短編映像作品を2グループに分けて制作までを行い（デスクトップでのビデオ編集方法の概説とグループ分けは9時間目に時間を調節して行った）、最終回に作品提出／講評と言う手順であった。各回で紹介する映像の内容は、研究室で準備したものを貸し出すか、図書館から借りて視聴させ、各自が別々の作品を鑑賞し、授業では特に印象的だった部分をお互いに紹介させ感想を述べ合うといった方法をとった。アンケート結果（グラフ）からみると、「教師の実力育成に役立つか」と言う項目で配点が若干低いが、現場で即応用できなくとも、経験として児童生徒に多くを伝えられる事を望んでいる。「こういう映像がある」と話して教えたり、映像を作る時に構図を参考に取り入れたりできることも重要だからである。さて、本年度の自由筆記の感想で良かったと思われる点は「自分では買わない色々なジャンルの映像を見ることができて良かった」が2名、「PCやソフトを活用した編集方法を修得できた」および「視聴覚教材が多くプレゼンの仕方も数多くできた」が1名であった。改善すべき点については「作品づくりは個人でも良かったかもしれない。ただし集団作業も勉強になった」が1名。90分で6名がシーン紹介等をしながら情報交換するため、時間管理に大変気を使った。基本的にはこの授業運営方式では、この人数がベストであると感じている。

結果報告書

授業科目名　工芸制作研究
評価実施日　平成27年2月17日
担当教員名　栗原　慶　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	4					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	6					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	6	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	3	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	3					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13	1					4.9



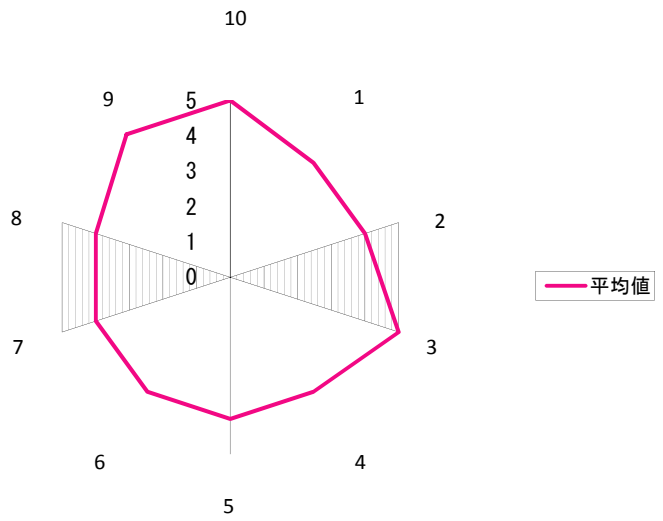
教員のコメント

ユニバーサルデザインの条件を満たした器制作を、鋳込み技法の習得と関連させて行った。大学院の授業ということで、作品に一定の完成度を求めているのだが、限られた時間内での制作や専門外の学生にとっての負担を考えるとあまり高度な要求もできず、基礎的なことと専門的な内容のバランスに苦慮した。(4)(5)(7)の項目で3の評価を1名から受けているが、特に(4)の成績評価の説明項目が4．4になっている原因は、先に述べた授業者の苦慮した点が、学生には評価基準が見えないことに繋がってしまったのだと推測する。学生が作品の成果を発表する際は、学生の目の前で順位付する訳ではないのだが、なんらかの明確なラインを設定しそれを示すことで改善していきたい。全体としては、4･9の評価であるので、方向性や内容についてはこのまま継続していく考えである。

結果報告書

授業科目名　総合造形研究
評価実施日　平成26年12月25日
担当教員名　池垣　禎彦　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		6					4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		6					4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		6					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		6					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		6					4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		6					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		6					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0

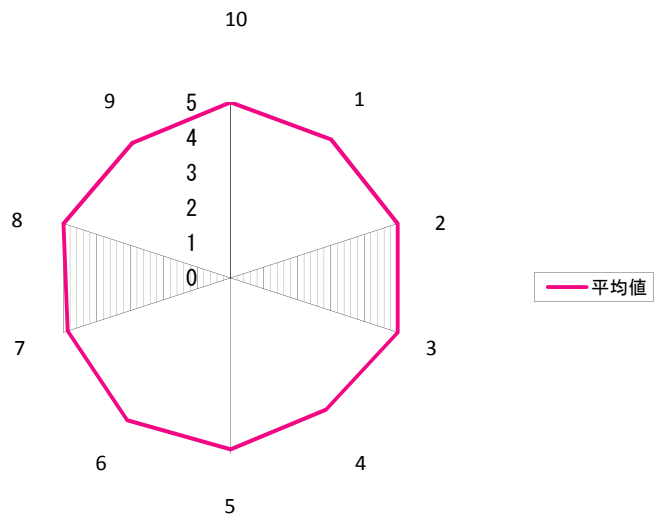


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　美術科教育学研究
評価実施日　平成27年2月5日
担当教員名　山田　芳明　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



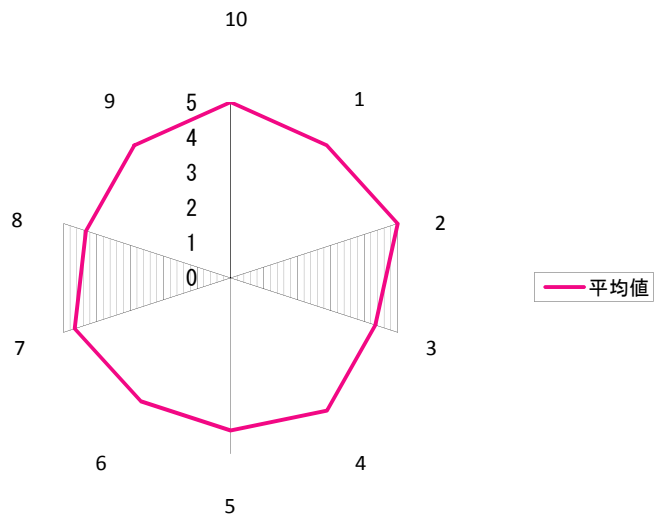
教員のコメント

本授業の総合評価は5であり，学生にとって満足度の高い授業となっていることが伺える。
学生のコメントにも「討論形式で，考えを深められることができた。」「それぞれのテーマを出し合った話し合うことにより，自分が気付いて居相支店を知ることができ，勉強になった」「学生が各々一つのテーマについて調査発表することで，美術教育について知識理解を深められた」といったことが挙げられており，授業構成も学生の学びに資する物となっていることが伺える。
ただ，質問項目の成績評価方法の説明は適切であったか」という項目については，他の項目に比べて評価が下がっており学生のコメントにも「自分で調べたものか，自分が参加したものに関するものを発表するのか，最初のあたりよくわからなかったので，今度から，今回のような形式で決められていたら混乱がないと思う」というよな，授業のガイダンスの不備を指摘するものがあり，その点に関しては改善を図りたい。

結果報告書

授業科目名　学校体育経営演習
評価実施日　平成27年1月28日
担当教員名　藤田　雅文　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	2					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



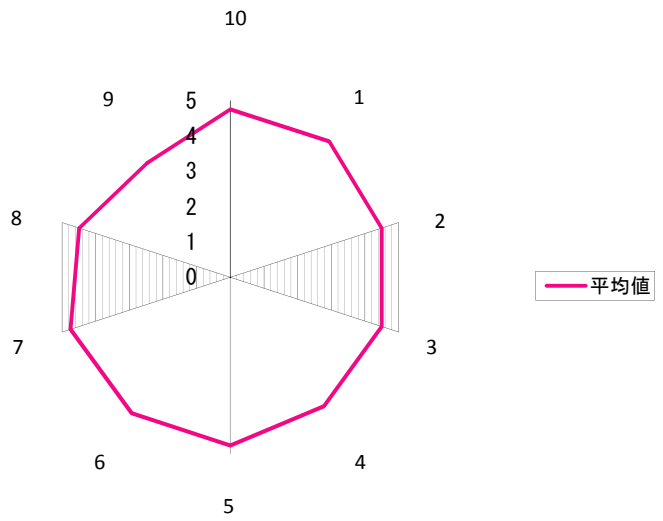
教員のコメント

9項目の平均評価点は4.56で，総合評価も5.0であることから，高い評価を得たと考えている。本授業では，パソコンを活用して，保健体育科の学習評価，体力テストのデータ分析，体育授業研究のデータ分析の演習を行っている。教育実践現場に役立つ内容をさらに厳選して，次年度以降も同様のスタイルで授業を展開したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　健康科学演習
評価実施日　平成27年2月6日
担当教員名　廣瀬　政雄　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4					4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



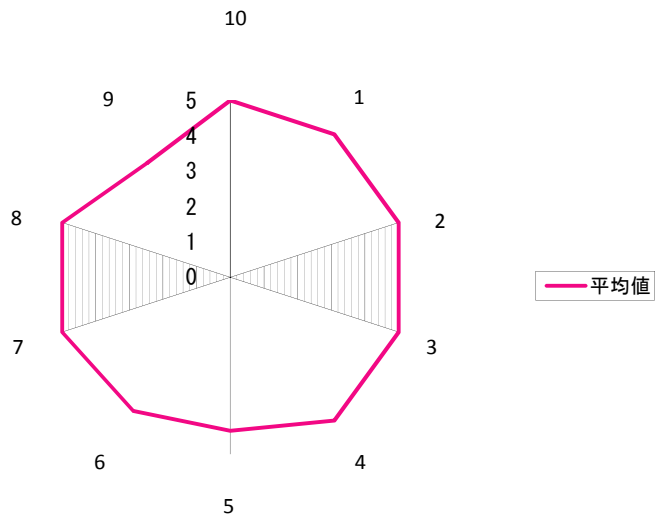
教員のコメント

後期の授業を受講した学生は、前期の同じ授業に対する評価が良好なために、延長線上にある本授業に対してもよい評価をしている。医学的内容を含むため広範な内容に授業となりかねないが、参加するだけで健康に関する知識を得られるように授業を行っている。従って、何らかのことを行って授業に参加している実感を持ってもらうようにする工夫も必要かもしれない。

結果報告書

授業科目名　情報技術演習
評価実施日　平成27年2月9日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	2					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



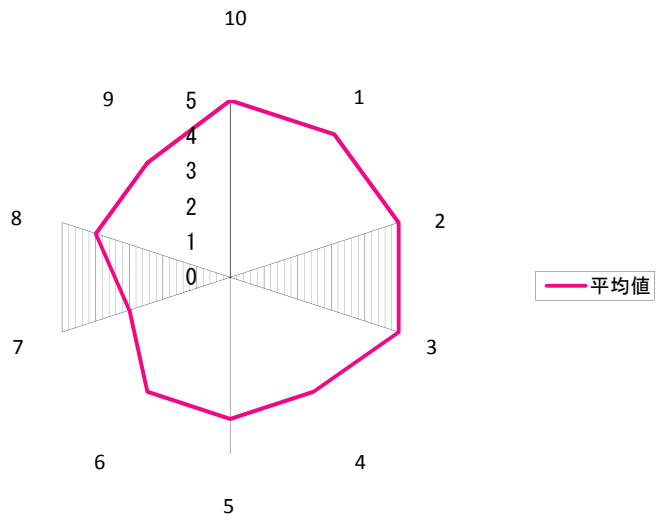
教員のコメント

今年度は受講者が3名であったこともあり，順調に授業を進めることができた。授業の進行速度について少し早かったのかもしれないが，反応としては全員理解しながら学習していたと思える。全体的に高い評価を得たため，順調に授業を進めることができたと思える。

結果報告書

授業科目名　プログラミング演習
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　林　秀彦　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1					4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。			1				3.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



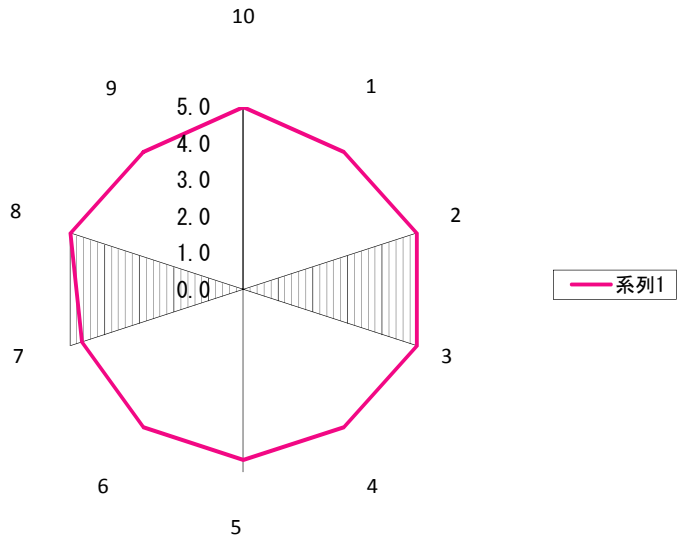
教員のコメント

本授業は，与えられた課題に取組むうえで，問題解決能力に加えて問題発見能力の習得も必要となっている。授業方法はプログラミング入門レベルの文法を習うような指導型ではなく，課題に対して多面的な観点から学習をサポートできる学習支援型である。このような授業の特性については，初回の授業で説明しており，授業評価結果では，評価値が4と5が多く、全体的に高い傾向にあったことからも，それらの点がおおむね理解されたうえで受講者は授業に取組んでいたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名　情報応用演習
評価実施日　平成27年2月17日
担当教員名　曽根　直人　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



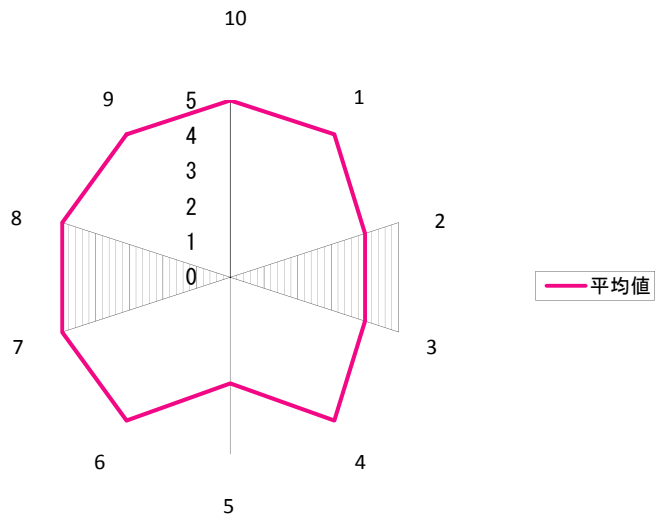
教員のコメント

この授業では，学校現場で必要となるネットワークやICTの知識を演習を通じて理解することを目指している．サンプル数は少ないものの，高い評価が得られたことは授業で行なった内容が評価されたと考える．ICTの分野は変化が早く，毎年さまざまな技術が発表されている．この授業でも基礎となる知識に加えて，新しい技術の紹介も行なっていることも良い評価につながったのではないかと考える．今後も基礎と先端の技術それぞれを経験できるような演習を行なっていきたい．

結果報告書

授業科目名　コンピュータ科学演習
評価実施日　平成27年2月5日
担当教員名　宮本　賢治　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1					4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。			1				3.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



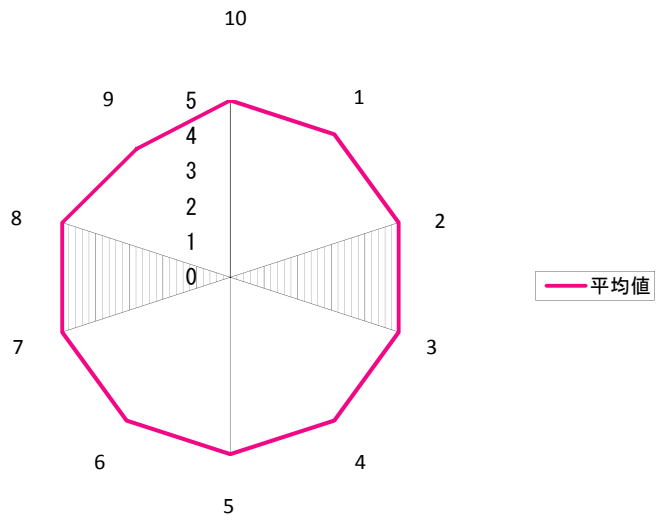
教員のコメント

人数が1人で統計的には不十分であるが、質問項目で1項目を除いて4.0以上の評価が得られてまずまずの結果となった。1対1の授業であるにもかかわらず、質問項目(5)の授業の進む速度については評価が3であり、内容を盛り込み過ぎたことが良くなかった理由と考えられる。今年度の反省点を踏まえて、今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名　家族・ジェンダー論演習
評価実施日　平成27年2月19日
担当教員名　黒川　衣代　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



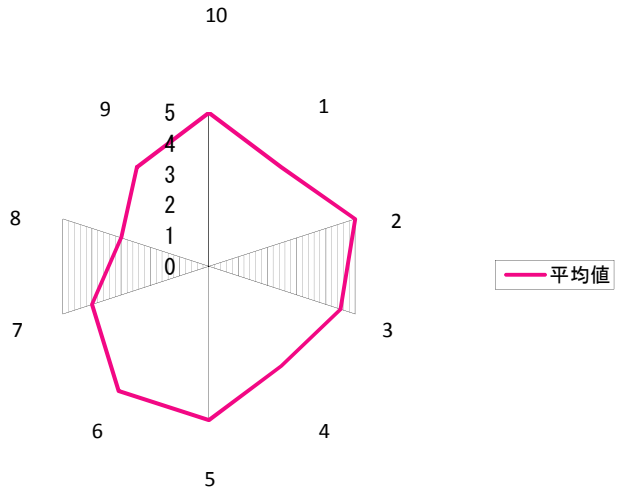
教員のコメント

履修学生は、前期の「家族・ジェンダー研究」を履修した学生であった。その講義で学んだ内容と関連させながら、家族ストレス理論を用いて、知識を実践に生かす作業を試みた。学生は、2人とも意欲が高く、非常に熱心に取り組んでいたので、こちらも良い刺激をいただいた。

結果報告書

授業科目名　衣生活学演習
評価実施日　平成27年2月3日
担当教員名　福井　典代　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		2					4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		2					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		2					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。			2				3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2					4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



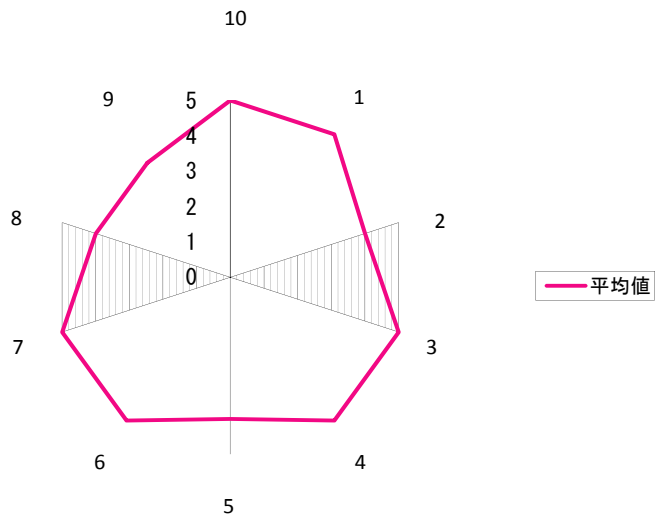
教員のコメント

今年度の授業は，学生の適性(高校家庭科教員志望)を考慮して，浴衣の製作実習を行った。学生からのコメントも「教員になってからの授業や実習で必要な知識や技術を学べた。」,「日頃縫わない浴衣を縫うことができて勉強になりました。」という肯定的な意見であった。学部授業では専門科目の科目数や時間に制限があるので，この内容を扱うことはできないが，大学院の授業でこれからも機会があれば製作実習を実施したい。

結果報告書

授業科目名　家庭科教育学演習
評価実施日　平成27年2月12日
担当教員名　速水　多佳子　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1					4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



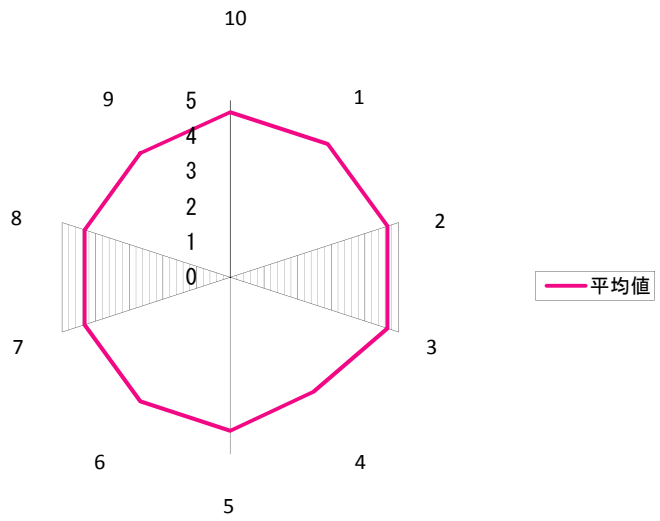
教員のコメント

授業の登録者は1名であったが、聴講希望者が1名いたため、合わせて2名の受講者を対象として授業を行った。
授業に対する総合評価は5.0であり、受講者のニーズにあった授業展開ができたと判断できる。
受講者は、大学院修了後に教員を目指しており、学校で活用できる教材や機器を扱うことを中心とした授業を行った。家庭科は、実践的・体験的な学習活動を通して具体的に学習を進めていく教科である。実際の授業の中で調理実習や被服製作実習を安全に円滑に展開していくためには、教員自身に製作に関する高度な技術力と指導力が求められる。そこで、実際の授業で活用できる教材を用いて、児童生徒への実習授業で指導する際にはどのような点に留意して進めていけばよいかを考察しながら授業を進めていった。受講者は、積極的に参加しており意欲的に取り組むことができていた。
今後も少人数での授業となることが予想されるため、受講者のニーズに応じた授業展開をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育演習Ⅰ
評価実施日　平成27年3月9日
担当教員名　近森　憲助，石村　雅雄，小澤　大成，石坂　広樹　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2			1			4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2		1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



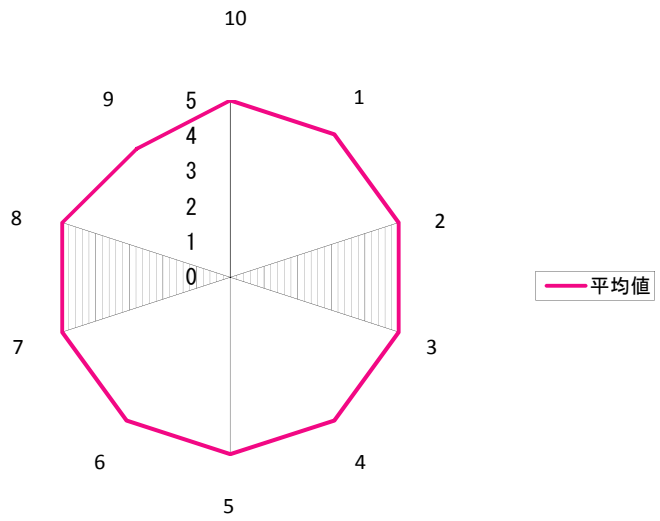
教員のコメント

受講生から特段の指摘もなかったので、コメントのしようもないが、成績評価についての説明には留意したい。

結果報告書

授業科目名　国際教育演習Ⅱ
評価実施日　平成27年3月9日
担当教員名　近森　憲助，石村　雅雄，小澤　大成，石坂　広樹　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



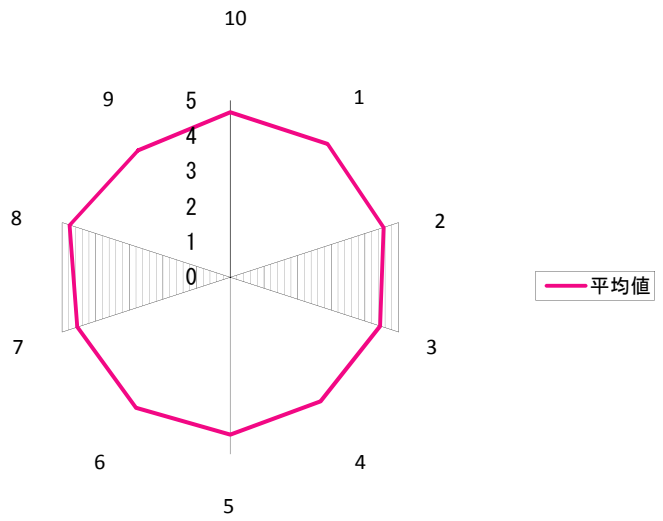
教員のコメント

受講生からの特段の指摘もないためコメントのしようもないが、授業については、ほぼ満足できるものであったのではないかと判断している。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力特論Ⅱ
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　小澤　大成，近森　憲助　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6		3				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1	2				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3					4.7



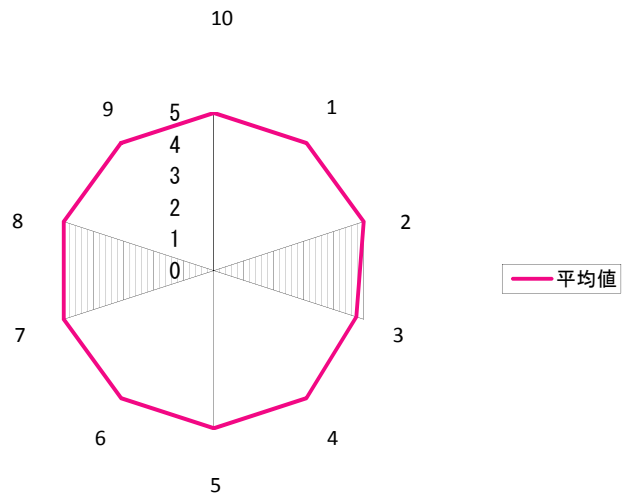
教員のコメント

授業研究を開発途上国の文脈に即して体験的に学ぶことを通じて、途上国での授業改善にとって必要な手法を理解することが目的の講義である。総合評価4.7とまずまずの評価であった。「授業中の発表や課題を通じて深く考えることができた」「授業分析の方法や受講者間の意見交換ができた」ことを好意的に捉えている。成績評価や授業の進む速さへの評価がやや低く，今年度では成績評価方法の説明を明確にする等の改善を予定している。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力研究
評価実施日　平成27年2月13日
担当教員名　石坂　広樹，近森　憲助　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



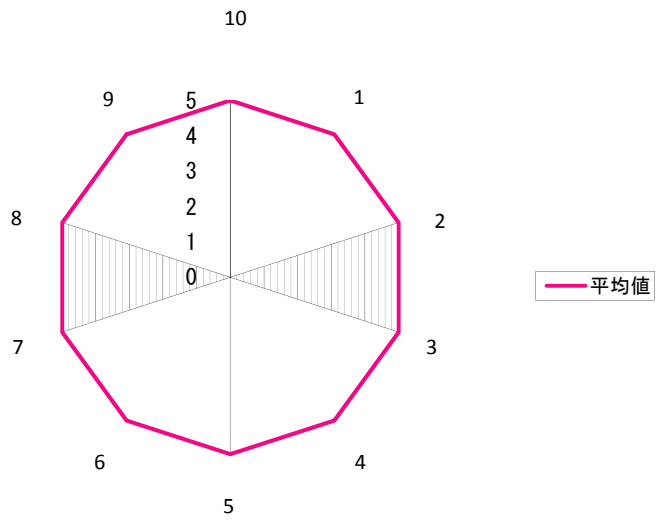
教員のコメント

内容的には、経済学が入っており学生にとっては非常に難解であったことと思うが、経済学の教育への影響について理解が得られ、その理解の必要性について感じられたことがこの結果に結びついているものと考える。次回以降ではもう少しディスカッションを増やしていきたいと考える。

結果報告書

授業科目名　外国語運用能力強化演習Ⅱ
評価実施日　平成27年2月13日
担当教員名　石村　雅雄，石坂　広樹　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



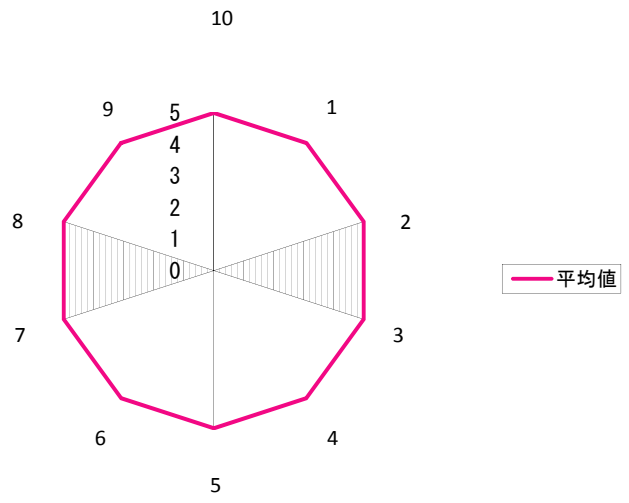
教員のコメント

学生の意欲に支えられた演習であり、高い意欲の学生が集まったことで、この結果になったと思う。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力演習
評価実施日　平成27年2月
担当教員名　石坂　広樹，近森　憲助　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



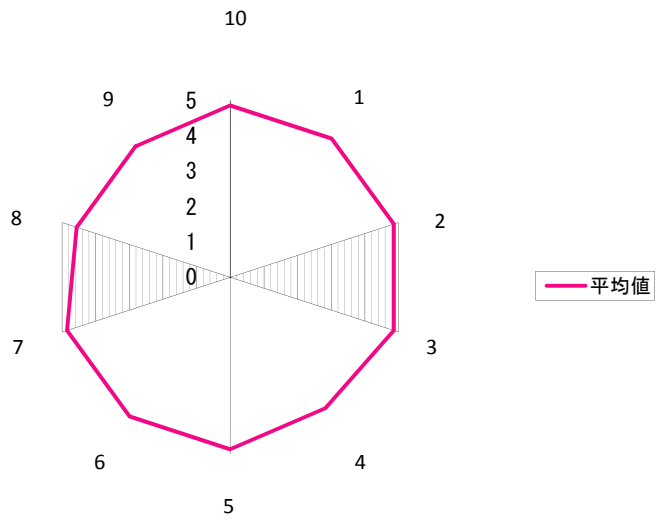
教員のコメント

一名の学生だけであったため、個別指導的な演習となった。今後も引き続き内容改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　国際理解教育特論Ⅱ
評価実施日　平成27年2月13日
担当教員名　近森　憲助，小澤　大成　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	3					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



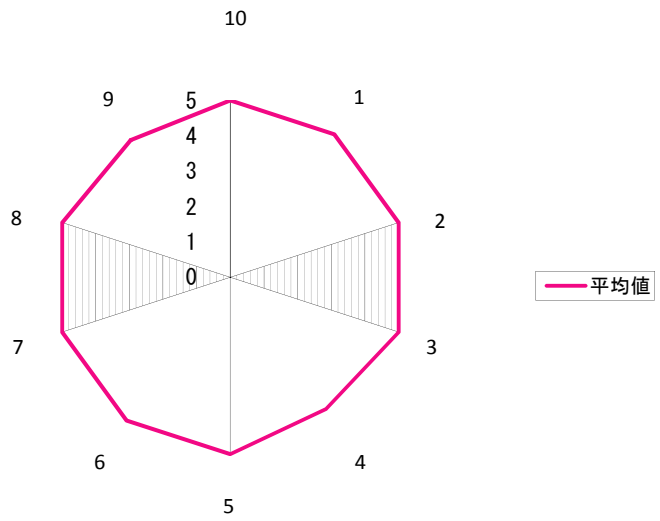
教員のコメント

総合評価が高かった理由は、専門家の論文の講読・発表及びその内容に関するディスカッションを通した意見交換の機会などを、ほぼ毎時間設定したことではないかと思われる。したがって、授業に積極的に取り組んだ理由として、「今後に活かせるから」という指摘や、ディスカッションの中で「考えが深まった」などの感想があったのではないかと思われる。

結果報告書

授業科目名　国際理解教育演習
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　近森　憲助，小澤　大成　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4		1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



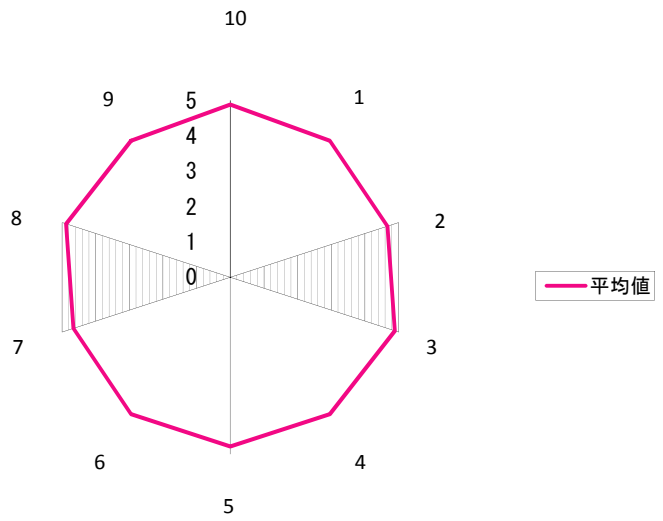
教員のコメント

受講生のコメントを踏まえると、国際理解教育に関する指導案の検討や模擬授業の実施、さらに、これらの課題に関するディスカッションを通した意見交換など、体験的で実践的な授業内容であったことが、高い評価につながったのではないかと考えられる。

結果報告書

授業科目名　国際教育総合セミナーⅡ
評価実施日　平成27年2月16日
担当教員名　石村　雅雄，近森　憲助，小澤　大成，石坂　広樹　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8		1				4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8		1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8		1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	1	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8		1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



教員のコメント

高い評価につながったのは、学生相互に研究に対する考え方や進め方などを共有できたこと、授業担当教員の発表に関するコメントが、今後の研究を進めて行くうえで参考になったこと、研究成果を客観的に見ることができること、発表のチャンスが与えられることなどの理由が考えられる。成績評価については、その方法をさらに明確で受講生が理解しやすいものにしていく必要があるものと考えられる。